

令和6年度中小企業実態調査事業
(商店街の取組事例等に関する調査事業)
報告書

2025年3月31日
株式会社 船井総合研究所

—目次—

1. 事業概要

2. 事業実施内容

- (1) 商店街組織等における取組事例の深掘り調査
- (2) 商店街活性化に関する意識調査 ※視察・意見交換会
- (3) 表彰式等の実施を通じた意識調査
- (4) 調査結果等の取りまとめ

1. 事業概要

【事業目的】

地域の顔でもある商店街は、商業機能のみならず、地域の雇用や生活関連サービスなど、地域の生活に不可欠な機能を担う主体として、また、地域コミュニティの拠点として重要な存在であるが、地方の商店街を中心に、経営者の高齢化や商店街組合員の減少に伴う組織的な活動力の低下、個店同士の連携の希薄化が進んでおり、商店街の面的な魅力の低下につながっている。

こうした課題を打開すべく、商店街内の次世代リーダーを中心に新たな商店街活動に挑戦する動きや、まちづくり会社と連携し地域資源等を活かした活性化策を展開する動き、関係者と広く連携し地域・エリアブランディングの強化を通じて来街者の増加を図る動き等が各地で生まれている。

本事業は、商店街組織等（商店街組織（商店街振興組合、事業協同組合等及び任意団体）及び地域のまちづくり・商業活性化の担い手として事業に取り組む民間事業者等（まちづくり会社等））が商店街において行う「地域の個性や多様性を伸ばし、エリア価値を高めることによって、持続可能なまちづくりに繋げる創意工夫を凝らした取組」を、外部有識者による審査によって厳選し、優れた事例については深掘り調査を通じて実態を明らかにし、今後の商店街活性化政策の基礎資料とする。また、当該調査で得られた事例を基にした商店街向けの意識調査を行い、商店街に新たな気づきを与えたとともに行動変容を促すために必要な要素、手法、情報発信方法等について調査及び分析を行う。

【事業内容】

- (1) 商店街組織等における取組事例等の深掘り調査
- (2) 商店街活性化に関する意識調査
- (3) 表彰式等の実施を通じた意識調査
- (4) 調査結果等の取りまとめ

2. 事業実施内容

(1) 商店街組織等における取組事例等の深掘り調査

取り組み前の課題、取組体制、取組詳細、成果、対外発信方法などについて明らかにするため、受賞者の取組事例の深掘り調査（ヒアリング）を実施した。また、有識者にヒアリングを実施し選定者の取組に対する評価等を整理した。ヒアリングを事例集に反映した。

【1】安芸本町商店街振興組合

○第1回ヒアリング

日時：2024年8月29日 10時～11時

場所：オンライン

参加者：

安芸本町商店街振興組合 事務局 山本 由加利 様

安芸商工会議所 専務理事 井上 和仁 様

○第2回ヒアリング

日時：2025年2月12日（水）11時～12時

場所：安芸商工会議所 会議室

参加者：

安芸商工会議所 専務理事 井上 和仁 様

安芸商工会議所 副会頭 佐藤 正 様

安芸本町商店街振興組合 事務局 山本 由加利 様

安芸市議会 安芸本町商店街振興組合 佐藤 倫与 様

高知県 産業振興推進部 産業政策課 安芸地域 地域支援企画員 川添 聡美 様

○有識者ヒアリング

日時：2025年3月5日（水）9時～10時

場所：オンライン

参加者：

和歌山大学 副学長 足立 基弘 様

【2】一般社団法人からまち/協同組合唐戸商店会

○第1回ヒアリング

日時：2024年8月22日（木）14時～15時

場所：オンライン

参加者：

一般社団法人からまち 副代表理事 梶原 康弘 様

一般社団法人からまち 理事/協同組合 唐戸商店会 理事長 山口 昌則 様

一般社団法人からまち 理事 宮里 剛 様

○第2回ヒアリング

日時：2025年1月27日（月）17時～18時

場所：一般社団法人からまち 事務所

参加者：

一般社団法人からまち 副代表理事 梶原 康弘 様

一般社団法人からまち 理事/協同組合 唐戸商店会 理事長 山口 昌則 様

○有識者ヒアリング

日時：

2025年3月6日（送付）

2025年3月14日（回答）

場所：紙面ヒアリング

参加者：

東京大学 大学院工学系研究科 村山 顕人 様

【3】一般社団法人やかげまるごと商店街振興会

○第1回ヒアリング

日時：2024年8月22日（木）11時～12時

場所：オンライン

参加者：

一般社団法人やかげまるごと商店街振興会 代表理事 佐伯 健次郎 様

一般財団法人矢掛町観光交流推進機構 桑木 晃太郎 様

○第2回ヒアリング

日時：2024年10月21日（月）11時～12時

場所：やかげ西町イベント広場

参加者：

一般社団法人やかげまるごと商店街振興会 代表理事 佐伯 健次郎 様

○有識者ヒアリング

日時：2025年1月17日（金）10時～11時

場所：オンライン

参加者：

流通科学大学 商学部 准教授 新 雅史 様

【4】宇宿商店街振興組合

○第1回ヒアリング

日時：2024年8月26日（月）13～14時

場所：オンライン

参加者：

宇宿商店街振興組合 理事長 河井 達志 様

○第2回ヒアリング

日時：2024年11月5日（火）11時～12時

場所：宇宿商店街振興組合 事務所

参加者：

宇宿商店街振興組合 理事長 河井 達志 様

○有識者ヒアリング

日時：2025年2月21日（金）9時～10時

場所：オンライン

参加者：

和歌山大学 副学長 足立 基浩 様

【5】株式会社ベース、諫早市中心市街地商店街協同組合連合会

○第1回ヒアリング

日時：2024年9月13日（金）9時～10時

場所：オンライン

参加者：

株式会社ベース 代表取締役 陣野 真理 様

○第2回ヒアリング

日時：2024年11月17日（日）11時～12時

場所：ARCH

参加者：

株式会社ベース 代表取締役 陣野 真理 様

○有識者ヒアリング

日時：2025年3月6日（木）13時～14時

場所：オンライン

参加者：

流通科学大学 商学部 准教授 新 雅史 様

【6】クローバー通り商店会

○第1回ヒアリング

日時：2024年8月26日（月）15時30分～16時30分

場所：オンライン

参加者：

クローバー通り商店会 事務局 土田哲也 様

○第2回ヒアリング

日時：2025年1月18日（土）11時～12時

場所：森のマルシェ きころ

参加者：

クローバー通り商店会 会長 渥美 芳弘 様

クローバー通り商店会 事務局 土田 哲也 様

○有識者ヒアリング

日時・場所：スケジュール調整の関係上、紙面でのヒアリングを実施

参加者：

事業構想大学院大学 学長 田中 里沙 様

【7】吹田市旭通商店街協同組合

○第1回ヒアリング

日時：2024年8月22日（木）16時～17時

場所：オンライン

参加者：

吹田市旭通商店街協同組合 池内かおり 様

○第2回ヒアリング

日時：2024年10月4日（金）11時～12時

場所：吹田市旭通商店街協同組合 事務所

参加者：

吹田市旭通商店街協同組合 理事長 池内 かおり 様

株式会社 石井経営サポート 中小企業診断士 石井 誠宏 様

○有識者ヒアリング

日時：2025年1月9日（木）9時～10時

場所：オンライン

参加者：

流通科学大学 商学部 准教授 新 雅史 様

【8】七日町商店街振興組合/山形まちづくり株式会社

○第1回ヒアリング

日時：2024年8月22日（木）10時～11時

場所：オンライン

参加者：

七日町商店街振興組合 事務局長 下田 孝志 様

○第2回ヒアリング

日時：2024年11月27日（水）11時～12時

場所：七日町商店街振興組合 事務所

参加者：

七日町商店街振興組合 理事長 玉井 優 様

七日町商店街振興組合 事務局長 下田 孝志 様

○有識者ヒアリング

日時：2024年1月17日（金）10時～11時

場所：オンライン

参加者：

流通科学大学 商学部 准教授 新 雅史 様

【9】福知山フロント株式会社/福知山駅正面通商店街振興組合

○第1回ヒアリング

日時：2024年8月30日（金）15時～16時

場所：オンライン

参加者：

福知山フロント株式会社 取締役 事務局 広瀬今日子 様

○第2回ヒアリング

日時：2024年11月20日（水）11時～12時

場所：銀鈴ビル 1階フリースペース

参加者：

福知山フロント株式会社 代表取締役 杉本 潤明 様

福知山フロント株式会社 事務局長 奥田 友明 様

福知山フロント株式会社 取締役 事務局 広瀬今日子 様

○有識者ヒアリング

日時：2025年3月6日（木）14時～15時

場所：オンライン

参加者：

流通科学大学 商学部 准教授 新 雅史 様

【10】松山市商店街連盟

○第1回ヒアリング

日時：2024年8月21日（水）11時～12時

場所：オンライン

参加者：

松山市商店街連盟 会長 加戸 慎太郎 様

株式会社 まちづくり松山 越智 あい 様

○第2回ヒアリング

日時：2025年2月13日（木）11時～12時

場所：一番町ホール

参加者：松山市商店街連盟 会長 加戸 慎太郎 様

株式会社 まちづくり松山 越智 あい 様

○有識者ヒアリング

日時・場所：スケジュール調整の関係上、紙面でのヒアリングを実施

参加者：

事業構想大学院大学 学長 田中 里沙 様

(2) 商店街活性化に関する意識調査（視察・意見交換会の実施を通じた意識調査）

商店街組織等が行う取組について、どのような点が明確になれば他の商店街組織等が自身の商店街に取り入れやすくなるかを調査した。具体的には、全国の商店街組織等から参加者を募り、参加者に受賞者との意見交換や当該商店街 10 カ所の現地踏査を実施した上で、意見交換・現地踏査の実施前後で被調査者の考えや課題認識、取組意欲等にどのような変化が生じるか意識調査を行った。また、意識調査を通じて得られたデータ等を踏まえて、商店街に新たな気づきを与え行動変容を促すために必要な要素、手法、情報発信方法等の整理を行い、事例集に反映した。

①募集

応募方法：推薦団体を通じた募集、中小企業庁および経済産業局の HP・SNS 等、株式会社船井総合研究所「月刊まちおこし」メールマガジン

募集期間：2024 年 9 月 5 日（木）～2025 年 2 月 13 日（水）

【1】安芸本町商店街振興組合

令和 6 年 11 月 13 日（水）～令和 7 年 2 月 11 日（火）

【2】一般社団法人からまち/協同組合唐戸商店会

令和 6 年 11 月 13 日（水）～令和 7 年 2 月 12 日（火）

【3】一般社団法人やかげまるごと商店街振興会

令和 6 年 9 月 20 日（金）～令和 6 年 10 月 21 日（金）

【4】宇宿商店街振興組合

令和 6 年 9 月 20 日（金）～令和 6 年 11 月 5 日（火）

【5】株式会社ベース、諫早市中心市街地商店街協同組合連合会

令和 6 年 9 月 20 日（金）～令和 6 年 11 月 17 日（日）

【6】クローバー通り商店会

令和 6 年 11 月 13 日（水）～令和 7 年 1 月 18 日（土）

【7】吹田市旭通商店街協同組合

令和 6 年 9 月 5 日（木）～令和 6 年 10 月 4 日（金）

【8】七日町商店街振興組合/山形まちづくり株式会社

令和 6 年 9 月 20 日（金）～令和 6 年 11 月 27 日（水）

【9】福知山フロント株式会社/福知山駅正面通商店街振興組合

令和 6 年 9 月 20 日（金）～令和 6 年 11 月 20 日（水）

【10】松山市商店街連盟

令和 6 年 11 月 13 日（水）～令和 7 年 2 月 12 日（水）

参加者募集中

経済産業省 中小企業庁は、商店街を含むエリア全体の価値向上につながる取組を行う商店街等を10者選定し、賞状・経済産業大臣から表彰を行いました。
受賞商店街への視察・意見交換会を全国10箇所で開催します。

経済産業省 中小企業庁
地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024

受賞商店街 視察・意見交換会

視察・意見交換会のポイント

- ✓ 受賞した商店街を視察し、取組の実例を知ることができます
- ✓ 商店街関係者や支援機関等との意見交換・ネットワーク作りができます
- ✓ 自身の商店街の活性化に関する悩みについて相談ができます

事前申込み 先着 各20名 参加無料

大阪府吹田市 吹田市旭通商店街協同組合

令和6年10月4日(金)

子育て世代や若者を商店街に呼び込む仕掛け作り

- ◆ 地域の子育て世代の意見を反映し、商店街が空き店舗を改装、授乳室やキッズスペースを備えたカフェや、ワークショップ等を行うレンタルスペースを設置・運営。
- ◆ 子育て世代向けワークショップ開催や子供を預けて商店街で買物できる仕組みの構築により、特に子供連れのお客が増加。レンタルスペースの利用をきっかけに若者の来店者も増加した。

13:00 集合
13:00-13:10 名刺交換
13:10-13:15 概要説明
13:15-13:25 受賞者プレゼンテーション
13:25-13:55 商店街視察
13:55-15:30 意見交換

参加者募集中

経済産業省 中小企業庁は、商店街を含むエリア全体の価値向上につながる取組を行う商店街等を10者選定し、賞状・経済産業大臣から表彰を行いました。
受賞商店街への視察・意見交換会を全国10箇所で開催します。

経済産業省 中小企業庁
地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024

受賞商店街 視察・意見交換会

視察・意見交換会のポイント

- ✓ 受賞した商店街を視察し、取組の実例を知ることができます
- ✓ 商店街関係者や支援機関等との意見交換・ネットワーク作りができます
- ✓ 自身の商店街の活性化に関する悩みについて相談ができます

事前申込み 先着 各20名 参加無料

岡山県矢掛町 一般社団法人やかげまこと商店街振興会

令和6年10月21日(月)

歴史的なまちなみを活かした「地域まるごと道の駅」

- ◆ やかげまの風情の残るまちなみを活かし、地域全体を「道の駅」に定義、住民と商店街の結束力を高め、町や観光交流推進機構等と協力し、商店街主導による地域活性化を図る。
- ◆ まちの魅力向上により、遠方からの来店者や若者の来店者が増加。新規出店も増え、町民自身も商店街で買物や飲食を行うようになった。賑わいを取り戻している。

13:00 集合
13:00-13:10 名刺交換
13:10-13:15 概要説明
13:15-13:25 受賞者プレゼンテーション
13:25-13:55 商店街視察
13:55-15:30 意見交換

高知県安芸市 安芸本町商店街振興組合 11月5日(水) 13:00-15:30	山口県下関市 一般社団法人からまち協同組合盛戸商店会 11月17日(日) 13:00-15:30	岡山県矢掛町 一般社団法人やかげまこと商店街振興会 10月21日(月) 13:00-15:30	高知県安芸市 安芸本町商店街振興組合 11月17日(日) 13:00-15:30	山口県下関市 一般社団法人からまち協同組合盛戸商店会 11月20日(水) 14:00-16:30	鹿児島県鹿児島市 宇留商店街振興組合 11月5日(水) 13:00-15:30	長崎県諫早市 株式会社ベース・諫早市中心市街地商店街協同組合連合会 11月17日(日) 13:00-15:30	静岡県浜松市 クローバー通り商店会 11月27日(木) 13:00-15:30	京都府福知山市 福知山フロント株式会社・福知山駅正定通商店街協同組合 11月20日(水) 14:00-16:30	愛媛県松山市 松山市商店街連盟 11月27日(木) 13:00-15:30
--	---	--	---	---	--	--	--	---	--

各回の詳細や参加申込みは、
経済産業省 中小企業庁ホームページをご確認ください。
<https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/award/tour2024.html>

【問い合わせ先】 わがまち商店街表彰事務局 (株式会社船井総合研究所内 (関西・熊本))
電話番号：0120-807-981 / メール：ext-wagamachi2024@meti.go.jp

参加者募集中

経済産業省 中小企業庁は、商店街を含むエリア全体の価値向上につながる取組を行う商店街等を10者選定し、賞状・経済産業大臣から表彰を行いました。
受賞商店街への視察・意見交換会を全国10箇所で開催します。

経済産業省 中小企業庁
地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024

受賞商店街 視察・意見交換会

視察・意見交換会のポイント

- ✓ 受賞した商店街を視察し、取組の実例を知ることができます
- ✓ 商店街関係者や支援機関等との意見交換・ネットワーク作りができます
- ✓ 自身の商店街の活性化に関する悩みについて相談ができます

事前申込み 先着 各20名 参加無料

鹿児島県鹿児島市 宇留商店街振興組合

令和6年11月5日(水)

住みたい町No.1を目指す商店街中心のまちづくり

- ◆ 地域の住民、業販店、行政など商店街周辺との協力体制を構築しつつ、商店街が主導して「住みたい町」づくりを推進。
- ◆ 商店街の将来を見越した長期計画「2050年宇留商店街構想」を策定。商店街の体制強化もめ細かく行いながら、短・中期目標を達成するための取組を実施し、地域全体の活性化に繋げている。

13:00 集合
13:00-13:10 名刺交換
13:10-13:15 概要説明
13:15-13:25 受賞者プレゼンテーション
13:25-13:55 商店街視察
13:55-15:30 意見交換

参加者募集中

経済産業省 中小企業庁は、商店街を含むエリア全体の価値向上につながる取組を行う商店街等を10者選定し、賞状・経済産業大臣から表彰を行いました。
受賞商店街への視察・意見交換会を全国10箇所で開催します。

経済産業省 中小企業庁
地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024

受賞商店街 視察・意見交換会

視察・意見交換会のポイント

- ✓ 受賞した商店街を視察し、取組の実例を知ることができます
- ✓ 商店街関係者や支援機関等との意見交換・ネットワーク作りができます
- ✓ 自身の商店街の活性化に関する悩みについて相談ができます

事前申込み 先着 各20名 参加無料

長崎県諫早市 株式会社ベース・諫早市中心市街地商店街協同組合連合会

令和6年11月17日(日)

諫早の魅力を発信するイベントによる地域活性化

- ◆ 地域を巻き込んだ1万人規模の「食」イベントの継続実施、効果的な情報発信を行うことにより知名度の向上を図り、商店街に新たな人流を生み出している。
- ◆ 来店者数の増加に伴い、商店街や商店街周辺への新規出店が増加。既存店も新たな客層向けに新商品を揃えるなど、地域全体の経済活性化に繋がっている。

13:00-13:05 開会
13:05-13:20 受賞者プレゼンテーション
13:20-13:55 商店街視察
※イベント開催日
13:55-15:30 意見交換

高知県安芸市 安芸本町商店街振興組合 11月17日(日) 13:00-15:30	山口県下関市 一般社団法人からまち協同組合盛戸商店会 11月20日(水) 14:00-16:30	岡山県矢掛町 一般社団法人やかげまこと商店街振興会 10月21日(月) 13:00-15:30	高知県安芸市 安芸本町商店街振興組合 11月28日(火) 13:00-15:30	山口県下関市 一般社団法人からまち協同組合盛戸商店会 12月12日(水) 13:00-15:30	鹿児島県鹿児島市 宇留商店街振興組合 11月5日(水) 13:00-15:30	長崎県諫早市 株式会社ベース・諫早市中心市街地商店街協同組合連合会 11月17日(日) 13:00-15:30	静岡県浜松市 クローバー通り商店会 11月18日(土) 13:00-15:30	京都府福知山市 福知山フロント株式会社・福知山駅正定通商店街協同組合 11月20日(水) 14:00-16:30	愛媛県松山市 松山市商店街連盟 12月13日(木) 13:00-15:30
---	---	--	---	---	--	--	--	---	--

各回の詳細や参加申込みは、
経済産業省 中小企業庁ホームページをご確認ください。
<https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/award/tour2024.html>

【問い合わせ先】 わがまち商店街表彰事務局 (株式会社船井総合研究所内 (関西・熊本))
電話番号：0120-807-981 / メール：ext-wagamachi2024@meti.go.jp



経済産業省 中小企業庁は、商店街を含むエリア全体の価値向上につながる取組を行う商店街等を10者選定し、賞状・経済産業大臣から表彰を行いました。
受賞商店街への視察・意見交換会を全国10箇所で開催します。
 商店街関係者、自治体、支援機関など商店街に関わる方だけでなく、どなたでも参加いただけます

経済産業省 中小企業庁
 地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024



経済産業省 中小企業庁は、商店街を含むエリア全体の価値向上につながる取組を行う商店街等を10者選定し、賞状・経済産業大臣から表彰を行いました。
受賞商店街への視察・意見交換会を全国10箇所で開催します。
 商店街関係者、自治体、支援機関など商店街に関わる方だけでなく、どなたでも参加いただけます

経済産業省 中小企業庁
 地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024

受賞商店街 視察・意見交換会 受賞商店街 視察・意見交換会

視察・意見交換会のポイント

- ✓ 受賞した商店街を視察し、取組の実例を知ることができます
- ✓ 商店街関係者や支援機関等との意見交換・ネットワーク作りができます
- ✓ 自身の商店街の活性化に関する悩みについて相談ができます

視察・意見交換会のポイント

- ✓ 受賞した商店街を視察し、取組の実例を知ることができます
- ✓ 商店街関係者や支援機関等との意見交換・ネットワーク作りができます
- ✓ 自身の商店街の活性化に関する悩みについて相談ができます

京都府福知山市 福知山フロント株式会社・福知山駅前正面商店街振興組合

令和6年11月20日(水)
 14:00-14:15 開会
 14:15-14:20 受賞者プレゼンテーション
 14:20-14:55 商店街視察
 14:55-16:30 意見交換

若手主導の商店街改革による地域活性化

- ◆ 商店街外から若手を抜擢してまちづくり会社を設立し、多様な事業をスピード感をもって推進。若手に活性化の取組を任せ、補助金を上手く活用しつつ、まちづくり会社が商店街を一体として活性化に向けた取組を行った。
- ◆ まちづくり会社が、組合ができない事業投資や出店意欲のある者への打診などを積極的に行ったことにより、魅力的な店舗が集結し、賑わいを取り戻している。

山形県山形市 七日町商店街振興組合・山形まちづくり株式会社

令和6年11月27日(水)
 13:00-13:05 開会
 13:05-13:20 受賞者プレゼンテーション
 13:20-13:55 商店街視察
 13:55-15:30 意見交換

観光と住みやすさの両立を目指したまちづくり

- ◆ 商店街構成員より組織された「まちづくり会社」を設立。商店街と連携する多様な組織で統一したまちづくりビジョンを掲げ、まちづくりを推進。
- ◆ 子育て支援・観光業・地場商品のアンテナショップなどを併せ持つ交流拠点の整備、創業に繋げる人材育成、空き物件や専門家とのマッチングなどにより、商店街の活性化と継続的な新規出店を実現。

大原府吹田市 秋田市旭通商店街協同組合 10月4日(日) 13:00-15:30	岡山県矢野町 一般社団法人 やかげまると商店街協同組合 10月21日(月) 13:00-15:30	鹿児島県鹿児島市 宇賀商店街振興組合 11月5日(水) 13:00-15:30
長崎県諫早市 株式会社へーす 諫早市中心市街商店街協同組合連合会 令和6年11月17日(日) 13:00-15:30	山形県山形市 七日町商店街振興組合 山形まちづくり株式会社 令和6年11月27日(水) 13:00-15:30	静岡県浜松市 クローバー通り商店会 令和7年1月18日(土) 13:00-15:30
山口県下関市 一般社団法人からまち 協同組合産戸商店会 令和7年1月28日(火) 13:00-15:30	愛知県安城市 安喜本町商店街振興組合 令和7年2月12日(水) 13:00-15:30	愛媛県松山市 松山市商店街連盟 令和7年2月13日(木) 13:00-15:30

大原府吹田市 秋田市旭通商店街協同組合 10月4日(日) 13:00-15:30	岡山県矢野町 一般社団法人 やかげまると商店街協同組合 10月21日(月) 13:00-15:30	鹿児島県鹿児島市 宇賀商店街振興組合 11月5日(水) 13:00-15:30
長崎県諫早市 株式会社へーす 諫早市中心市街商店街協同組合連合会 令和6年11月17日(日) 13:00-15:30	京都府福知山市 福知山フロント株式会社 福知山駅前正面商店街協同組合 令和6年11月20日(水) 14:00-16:30	静岡県浜松市 クローバー通り商店会 令和7年1月18日(土) 13:00-15:30
山口県下関市 一般社団法人からまち 協同組合産戸商店会 令和7年1月28日(火) 13:00-15:30	愛知県安城市 安喜本町商店街振興組合 令和7年2月12日(水) 13:00-15:30	松山市商店街連盟 令和7年2月13日(木) 13:00-15:30

各回の詳細や参加申込みは、経済産業省 中小企業庁ホームページをご確認ください
「地域にかがやく わがまち商店街表彰2024」の概要や、開催概要などご確認ください。
<https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/award/tour2024.html>
※先着順。定員に達し次第、募集を終了します。

各回の詳細や参加申込みは、経済産業省 中小企業庁ホームページをご確認ください
「地域にかがやく わがまち商店街表彰2024」の概要や、開催概要などご確認ください。
<https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/award/tour2024.html>
※先着順。定員に達し次第、募集を終了します。



経済産業省 中小企業庁は、商店街を含むエリア全体の価値向上につながる取組を行う商店街等を10者選定し、賞状・経済産業大臣から表彰を行いました。
受賞商店街への視察・意見交換会を全国10箇所で開催します。
 商店街関係者、自治体、支援機関など商店街に関わる方だけでなく、どなたでも参加いただけます

経済産業省 中小企業庁
 地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024



経済産業省 中小企業庁は、商店街を含むエリア全体の価値向上につながる取組を行う商店街等を10者選定し、賞状・経済産業大臣から表彰を行いました。
受賞商店街への視察・意見交換会を全国10箇所で開催します。
 商店街関係者、自治体、支援機関など商店街に関わる方だけでなく、どなたでも参加いただけます

経済産業省 中小企業庁
 地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024

受賞商店街 視察・意見交換会 受賞商店街 視察・意見交換会

視察・意見交換会のポイント

- ✓ 受賞した商店街を視察し、取組の実例を知ることができます
- ✓ 商店街関係者や支援機関等との意見交換・ネットワーク作りができます
- ✓ 自身の商店街の活性化に関する悩みについて相談ができます

視察・意見交換会のポイント

- ✓ 受賞した商店街を視察し、取組の実例を知ることができます
- ✓ 商店街関係者や支援機関等との意見交換・ネットワーク作りができます
- ✓ 自身の商店街の活性化に関する悩みについて相談ができます

静岡県浜松市 クローバー通り商店会

令和7年1月18日(土)
 13:00-13:05 開会
 13:05-13:20 受賞者プレゼンテーション
 13:20-13:55 商店街視察
 13:55-15:30 意見交換

新規出店サポートによる商店街活性化

- ◆ 行政等との連携により、新規事業者と商店街との相性を見極めたくて、空き店舗オーナーとのマッチングを実施。家賃折衝や店舗改修などについても商店街がサポート。
- ◆ 商店街の既存店も新規出店者への指導・助言等を行うなど、出店後もサポート。新規事業者の増加に伴い、来街者層も変化し、老舗店舗が新事業を展開するなど、活性化に繋がっている。

山口県下関市 一般社団法人からまち協同組合産戸商店会

令和7年1月28日(火)
 13:00-13:05 開会
 13:05-13:20 受賞者プレゼンテーション
 13:20-13:55 商店街視察
 13:55-15:30 意見交換

観光客の滞在性を高めるウォークアブルなまちづくり

- ◆ 唐戸エリア全体の活性化を目的として商店会を統合しまちづくり組織を設立。推進体制を整えたくて、観光客にとって滞在しやすいウォークアブルな街とするための取組を実施。
- ◆ 「入りたくなる商店街」を目指し、書類作成支援など組合員向けに様々なサービスを提供することにより、新規出店者や組合員数が増加。

大原府吹田市 秋田市旭通商店街協同組合 10月4日(日) 13:00-15:30	岡山県矢野町 一般社団法人 やかげまると商店街協同組合 10月21日(月) 13:00-15:30	鹿児島県鹿児島市 宇賀商店街振興組合 11月5日(水) 13:00-15:30
長崎県諫早市 株式会社へーす 諫早市中心市街商店街協同組合連合会 令和6年11月17日(日) 13:00-15:30	京都府福知山市 福知山フロント株式会社 福知山駅前正面商店街協同組合 令和6年11月20日(水) 14:00-16:30	山形県山形市 七日町商店街振興組合 山形まちづくり株式会社 令和6年11月27日(水) 13:00-15:30
山口県下関市 一般社団法人からまち 協同組合産戸商店会 令和7年1月28日(火) 13:00-15:30	静岡県浜松市 クローバー通り商店会 令和7年1月18日(土) 13:00-15:30	愛媛県松山市 松山市商店街連盟 令和7年2月13日(木) 13:00-15:30

大原府吹田市 秋田市旭通商店街協同組合 10月4日(日) 13:00-15:30	岡山県矢野町 一般社団法人 やかげまると商店街協同組合 10月21日(月) 13:00-15:30	鹿児島県鹿児島市 宇賀商店街振興組合 11月5日(水) 13:00-15:30
長崎県諫早市 株式会社へーす 諫早市中心市街商店街協同組合連合会 令和6年11月17日(日) 13:00-15:30	京都府福知山市 福知山フロント株式会社 福知山駅前正面商店街協同組合 令和6年11月20日(水) 14:00-16:30	山形県山形市 七日町商店街振興組合 山形まちづくり株式会社 令和6年11月27日(水) 13:00-15:30
山口県下関市 一般社団法人からまち 協同組合産戸商店会 令和7年1月28日(火) 13:00-15:30	静岡県浜松市 クローバー通り商店会 令和7年1月18日(土) 13:00-15:30	愛媛県松山市 松山市商店街連盟 令和7年2月13日(木) 13:00-15:30

各回の詳細や参加申込みは、経済産業省 中小企業庁ホームページをご確認ください
「地域にかがやく わがまち商店街表彰2024」の概要や、開催概要などご確認ください。
<https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/award/tour2024.html>
※先着順。定員に達し次第、募集を終了します。

各回の詳細や参加申込みは、経済産業省 中小企業庁ホームページをご確認ください
「地域にかがやく わがまち商店街表彰2024」の概要や、開催概要などご確認ください。
<https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/award/tour2024.html>
※先着順。定員に達し次第、募集を終了します。

【問い合わせ先】 わがまち商店街表彰事務局（株式会社和井総合研究所内）（担当：鈴木）
 電話番号：0120-807-981 / メール：exf-wagamachi2024@meti.go.jp

【問い合わせ先】 わがまち商店街表彰事務局（株式会社和井総合研究所内）（担当：鈴木）
 電話番号：0120-807-981 / メール：exf-wagamachi2024@meti.go.jp

参加者募集

経済産業省 中小企業庁は、商店街を含むエリア全体の価値向上につながる取組を行う商店街等を10者選定し、賞状経済産業大臣から表彰を行いました。
受賞商店街への視察・意見交換会を全国10箇所で開催します。
商店街関係者、自治体、支援機関など商店街に関わる方だけでなく、ごたても参加いただけます

参加者募集

経済産業省 中小企業庁は、商店街を含むエリア全体の価値向上につながる取組を行う商店街等を10者選定し、賞状経済産業大臣から表彰を行いました。
受賞商店街への視察・意見交換会を全国10箇所で開催します。
商店街関係者、自治体、支援機関など商店街に関わる方だけでなく、ごたても参加いただけます

経済産業省 中小企業庁 地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024

受賞商店街 視察・意見交換会

視察・意見交換会のポイント

- ✓ 受賞した商店街を視察し、取組の実例を知ることができます
- ✓ 商店街関係者や支援機関等との意見交換・ネットワーク作りができます
- ✓ 自身の商店街の活性化に関する悩みについて相談ができます

事前申込み 先着 各20名 参加無料

視察・意見交換会のポイント

- ✓ 受賞した商店街を視察し、取組の実例を知ることができます
- ✓ 商店街関係者や支援機関等との意見交換・ネットワーク作りができます
- ✓ 自身の商店街の活性化に関する悩みについて相談ができます

事前申込み 先着 各20名 参加無料

高知県安芸市		愛媛県松山市	
<p style="text-align: center;">安芸本町商店街振興組合</p> <p>令和7年2月12日(水)</p> <p>13:00-13:05 開会 13:05-13:20 受賞者プレゼンテーション 13:20-13:55 商店街視察 13:55-15:30 意見交換</p> <p style="text-align: center;">賞状種別・異分野・異世代による商店街活性化</p> <p>◆ 専門家や自治体等との協力のもと、商店街以外の商工事業者、市外住民、学生など様々な経験、情報等を持つ者が参加して、商店街活性化のための様々な取組を実施。</p> <p>◆ それぞれの取組ごとに賞状種別・異分野・異世代で情報共有、相談等を行う「たまり場」を設けることにより、より多くの関係者を巻き込んだ取組が実施されている。</p>	<p style="text-align: center;">松山市商店街連盟</p> <p>令和7年2月13日(木)</p> <p>13:00-13:05 開会 13:05-13:20 受賞者プレゼンテーション 13:20-13:55 商店街視察 13:55-15:30 意見交換</p> <p style="text-align: center;">市内商店街の連携による地域活性化</p> <p>◆ 市内18の商店街が連携し商店街連盟を組織。一体となつてまちの魅力の掘り起こしを行い、広報の強化・イベントの効果的な実施に繋げる。</p> <p>◆ 地域共通の決済プラットフォームを活用し、歴史・文化スポットや商店街の名店を巡るデジタルスタンプラリーを実施したことにより、幅広い層の来街を実現。</p>		
<p>大塚町商店街 秋田市旭通商店街協同組合 10月4日(水)</p> <p>長崎県諫早市 株式会社ベース 諫早市中心市街地商店街協同組合連合会 令和6年11月17日(日) 13:00-15:30</p> <p>静岡岡部松本市 山口町下町商店街 13:00-15:30</p> <p>山形県山形市 山形山形市 山形まちのつくり株式会社 令和6年11月27日(水) 13:00-15:30</p> <p>山形県山形市 山形県山形市 山形まちのつくり株式会社 令和6年11月27日(水) 13:00-15:30</p> <p>山形県山形市 山形県山形市 山形まちのつくり株式会社 令和6年11月27日(水) 13:00-15:30</p>	<p>大塚町商店街 秋田市旭通商店街協同組合 10月4日(水)</p> <p>長崎県諫早市 株式会社ベース 諫早市中心市街地商店街協同組合連合会 令和6年11月17日(日) 13:00-15:30</p> <p>静岡岡部松本市 山口町下町商店街 13:00-15:30</p> <p>山形県山形市 山形山形市 山形まちのつくり株式会社 令和6年11月27日(水) 13:00-15:30</p> <p>山形県山形市 山形県山形市 山形まちのつくり株式会社 令和6年11月27日(水) 13:00-15:30</p> <p>山形県山形市 山形県山形市 山形まちのつくり株式会社 令和6年11月27日(水) 13:00-15:30</p>		

各回の詳細や参加申込みは、経済産業省 中小企業庁ホームページをご確認ください
<https://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/award/tour2024.html>

②開催概要

各開催地域でのタイムスケジュールは、以下を基本とし、受賞者と調整のうえで調整を行った。

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 開会 | 0:00～ 0:05 |
| 2. 受賞者プレゼンテーション | 0:05～ 0:20 |
| 3. 商店街視察 | 0:20～ 0:55 |
| 4. 意見交換 | 0:55～ 1:15 |
| 5. 閉会 | 1:15～ 1:30 |

受賞者プレゼンテーションにおいては、受賞者の代表1名から受賞した取組についてプレゼンテーションを行った。発表においては、受賞者側が用意した資料等を配布した。プレゼンテーションの後に、外部有識者から取組に関するご講評をいただいた。

商店街視察では、取組に関する場所や商店街を代表する場所の踏査を行った。踏査中に受賞者側が説明を行う場所を数か所設け、受賞者が説明を行った。

意見交換は、受賞者プレゼンテーションや商店街踏査での取組に関して、参加者が自由に質問を行う形式で実施した。意見交換の冒頭と最後に、2～3人でグループワーク（チェックインディスカッション・チェックアウトディスカッション）を行った。

進行は、事務局（株式会社船井総合研究所）が行った。

【1】 安芸本町商店街振興組合

開催日時：令和7年2月12日（水）13:00-15:30

開催場所：安芸市商工会議所 大会議室

参加人数：25人

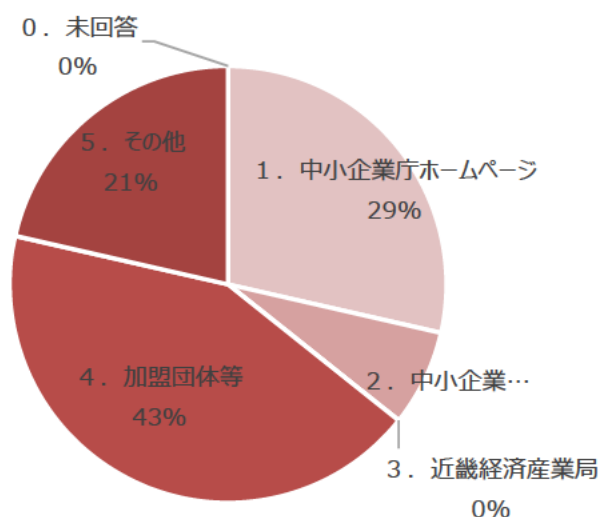
概要：

- ・農福商連携事業である軽トラマルシェが実施されている就労継続支援事業所「こうち絆ファーム」や商店街内外の関係者が交流・情報交換を行うコミュニティの場である「たまり場」の会場等を訪問。
- ・中心商店街等振興計画・アクションプランの具体的な取組のポイントや、商店街・周辺事業者だけでなく、関係機関、移住者、高校生など多様な人が取組に参画するためのコミュニティ形成方法などについて、活発な意見交換を行った。

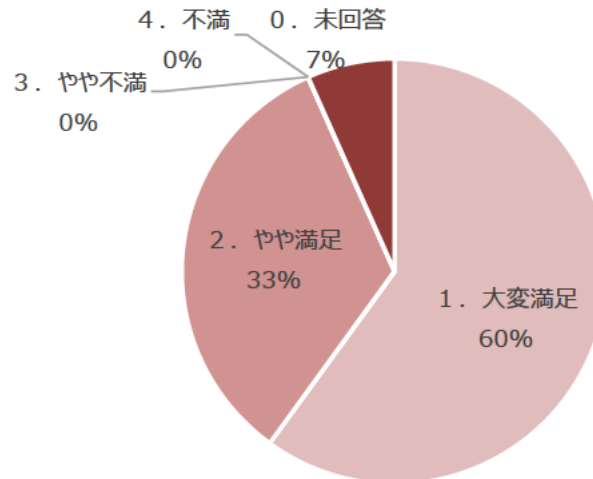


参加者アンケート結果（N=11）

(a) 視察・意見交換会の開催についてどこから情報を得たか。



(b) 視察・意見交換会の満足度



(c) 特に参考になった議論や全体の感想

- ・たまり場の存在・継続していることが参考になった。
- ・商店街の方は周りの人に助けられている分自分がやらなきゃと頑張る人が多い。ただ一人だけではくじけてしまうので周りも一緒に助けてほしい。
- ・考え方を変えないと人・ものが集まってきてもうまく進まない。具体的にやるということをすぐにやる。

【2】一般社団法人からまち/協同組合唐戸商店会

開催日時：令和7年1月28日（火）13:00-15:30

開催場所：亀山八幡宮 儀式殿

参加人数：42人

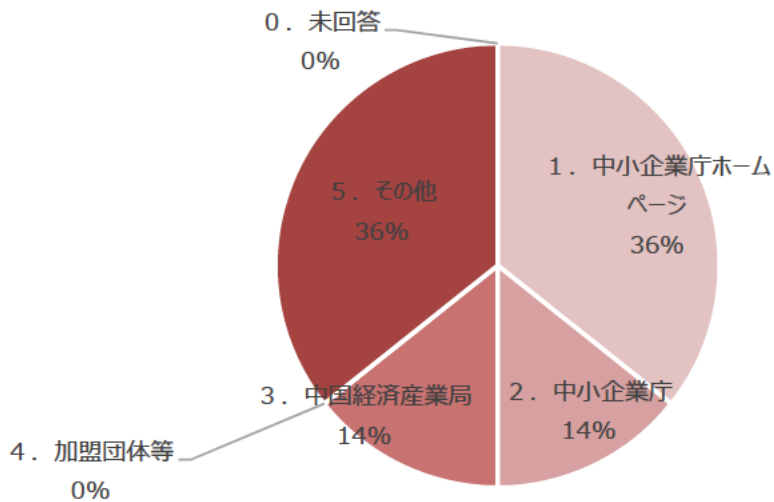
概要：

- ・POSシステム無償貸与等のサポートを受けながら、創業意欲のある方が3ヶ月間無料の出店が可能な、からまちが商店街内に設置したテナショップや、民間企業が運営する、出退店が容易で若手も多く出店する「唐戸はれて横丁」等を訪問。
- ・意見交換会においては、組織統合の際の合意形成のポイントや、まちづくり組織の5ヶ年計画作成にあたっての行政との連携、さらに先の20年、30年先のまちづくりをどのように考えていくかなど、活発な意見交換を行った。

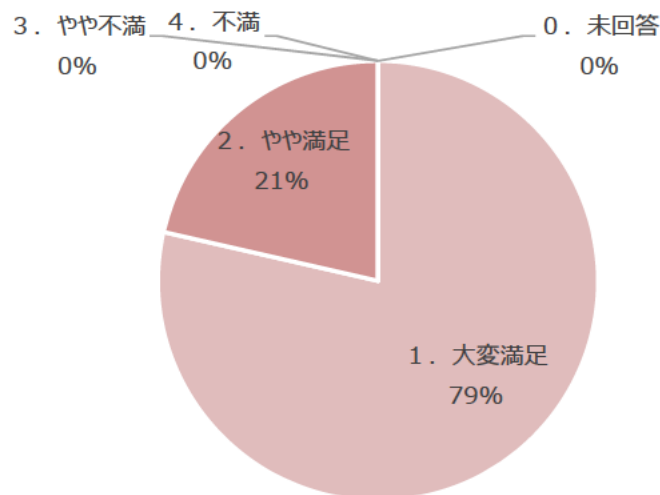


参加者アンケート結果（N=14）

(a) 視察・意見交換会の開催についてどこから情報を得たか。



(b) 視察・意見交換会の満足度



(c) 特に参考になった議論や全体の感想

・理事が若く、青年部の方も元気で、活力を感じた。

【3】一般社団法人やかげまると商店街振興会

開催日時：令和6年10月21日（月）13:00-15:30

開催場所：やかげ西町イベント広場

参加人数：15名

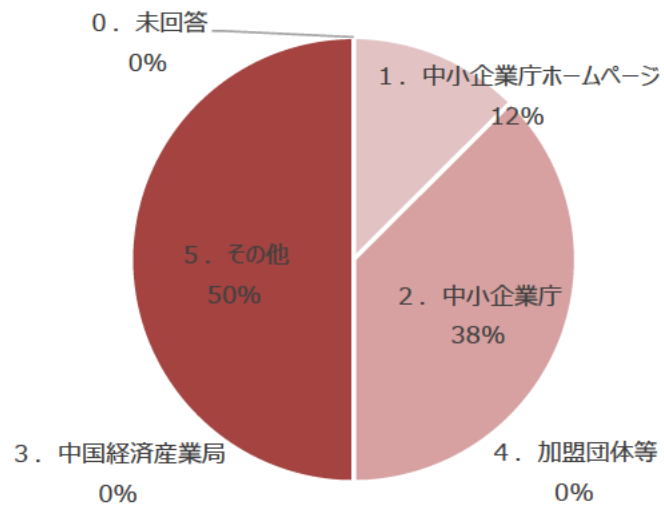
概要：

- ・商店街の入り口として機能する「道の駅山陽道やかげ宿」や地域資源「旧矢掛本陣石井家住宅」、新規出店の飲食店等を踏査。商店街全体で物販や飲食等のおもてなしを行い、地域全体のまちづくりに繋がっている様子を視察。
- ・意見交換会においては、商店街内/関係者のまちづくりへの意識をどう底上げしたか、地域住民の理解をどのように得たか、取組をどのように継続させてきたかなどについて意見交換を行った。

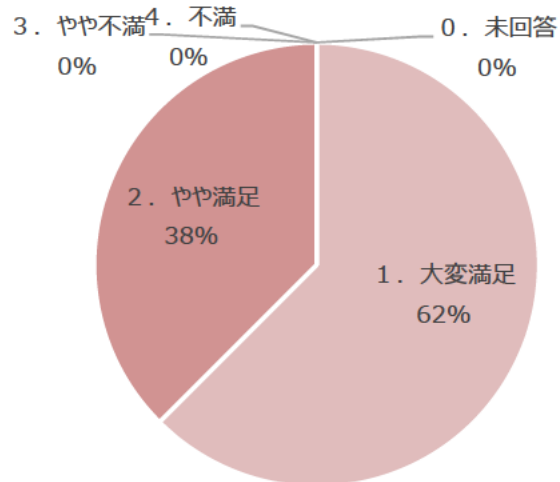


参加者アンケート結果 (N=8)

(a) 視察・意見交換会の開催についてどこから情報を得たか。



(b) 視察・意見交換会の満足度



(c) 特に参考になった議論や全体の感想

- ・観光客が来ればよいではなく、住民に寄り添った目線が参考になった。

【4】宇宿商店街振興組合

開催日時：令和6年11月5日（火）13:00-15:30

開催場所：カワイ ホール

参加人数：17人

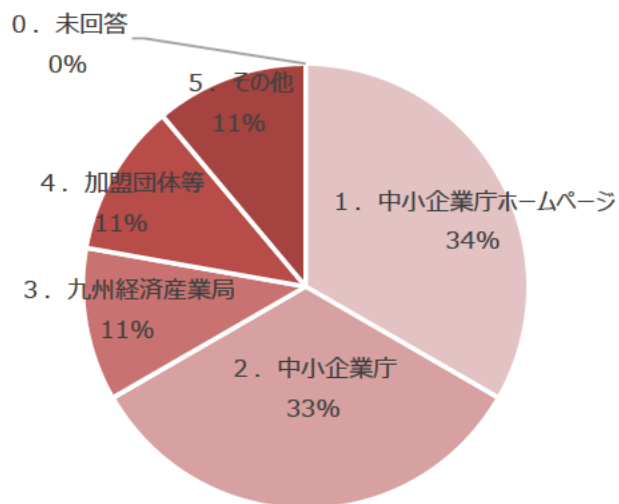
概要：

- ・住民の休憩の場、コミュニケーションの場となっている「まちの駅 宇宿」や来街者の安全・安心を支える街路灯や防犯カメラ、商店街が誘致し地域交通を支える「JR 宇宿駅」等を踏査。商店街が生活環境の向上に取り組む様子を伺うことができた。
- ・意見交換会においては、商店街内の合意をどのように形成したか、関係者をどのように巻き込んできたか、取組の継続にあたりPDCAサイクルをどのように回したかなどについて、活発な意見交換を行った。

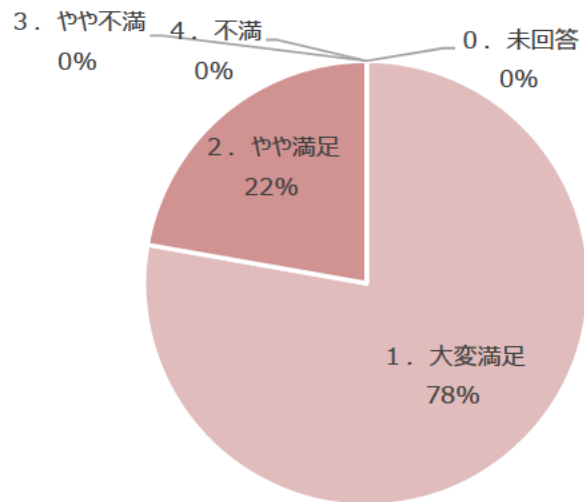


参加者アンケート結果（N=9）

(a) 視察・意見交換会の開催についてどこから情報を得たか。



(b) 視察・意見交換会の満足度



(c) 特に参考になった議論や全体の感想

- ・若手青年部との交流実践が商店街をリードしていた。

【5】株式会社ベース、諫早市中心市街地商店街協同組合連合会

開催日時：令和6年11月17日（日）13:00-15:30

開催場所：ARCH

参加人数：24人

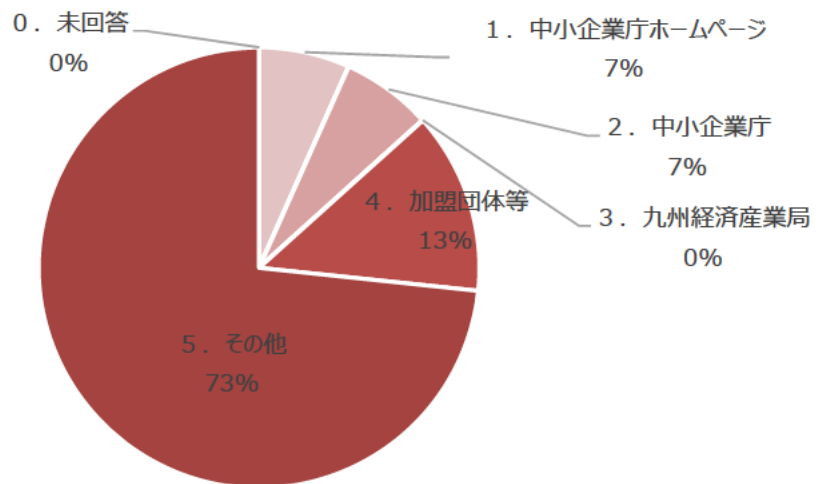
概要：

- ・当日開催されていた、地元産品や雑貨などの販売やキッチンカーなどがアーケード内に出店する「GOO GOO MARCHE」、地元食材やオーガニック製品などを揃える産直市場「TETOTE」等を踏査。イベントを通じて商店街の活性化に取り組む様子を伺うことができた。
- ・意見交換会においては、地域に何が必要かを見極めた活性化策を行うことの重要性、地方商店街が地域に何を提供できるか、住民をどのようにサービス提供側に巻き込むかなどについて、活発な意見交換を行った。

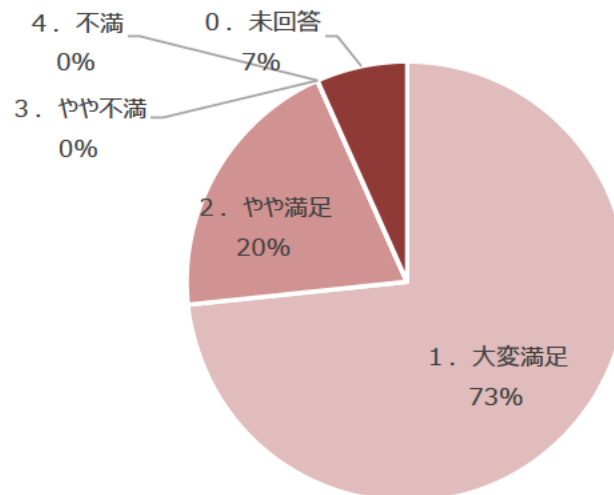


参加者アンケート結果 (N=15)

(a) 視察・意見交換会の開催についてどこから情報を得たか。



(b) 視察・意見交換会の満足度



(c) 特に参考になった議論や全体の感想

- ・高校生が、ある程度、責任を任せてお金の使い方などを学ぶ場になっていると感じた。
- ・商店街の余白という、自己実現をするための場の提供という観点到に驚きがあった。

【6】クローバー通り商店会

開催日時：令和7年1月18日(土) 13:00-15:30

開催場所：森のマルシェ きころ

参加人数：30人

概要：

- ・新規出店希望者向けの開業サポートや勉強会開催をワンストップで行う「天竜トライアルオフィス」や、リノベーションされた店舗、実際に新規出店された店舗等を踏査。商店会とトライアルオフィスが

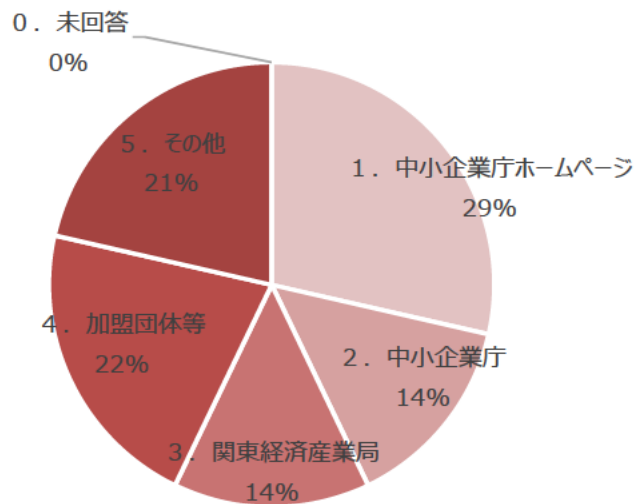
連携して空き店舗オーナーとの入居条件調整などを親身に行うなど、温かみある商店街の中にリノベされた新しい個店が増えた様子を視察。

- ・意見交換会においては、SNS や口コミで輪を広げる新規出店希望者への関心の持たせ方や希望者へのサポートの仕方、入店における空き店舗オーナーとの調整、地元住民とのつながりの構築、今後のビジョン策定に向けた行政側との連携などについて、活発な意見交換を行った。

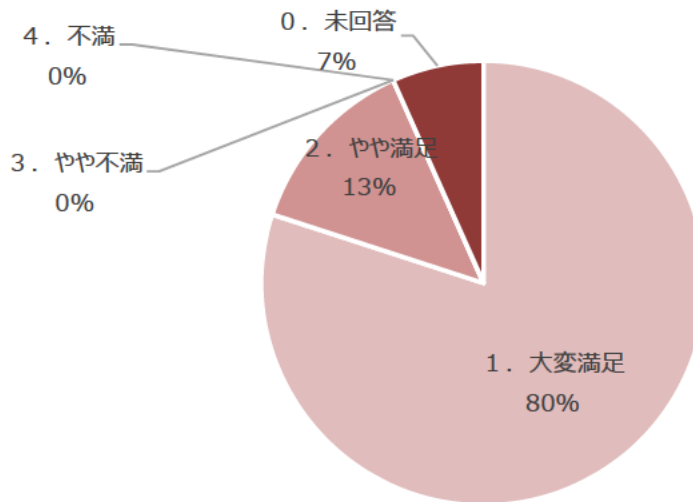


参加者アンケート結果 (N=14)

(a) 視察・意見交換会の開催についてどこから情報を得たか。



(b) 視察・意見交換会の満足度



(c) 特に参考になった議論や全体の感想

- ・外部有識者の田中先生のお話の中で「選ばれる商店街になるために、こちらも選ぶ」「やらないことだけ決めておき、その他は自由にチャレンジする」「ここでお金を使おう！」という気持ちを持ってもらえる雰囲気（ファン）を作る」などの言葉が心に響いた。

【7】吹田市旭通商店街協同組合

開催日時：令和5年10月21日（月）13:00-15:30

開催場所：吹田市立勤労者会館

参加人数：33人

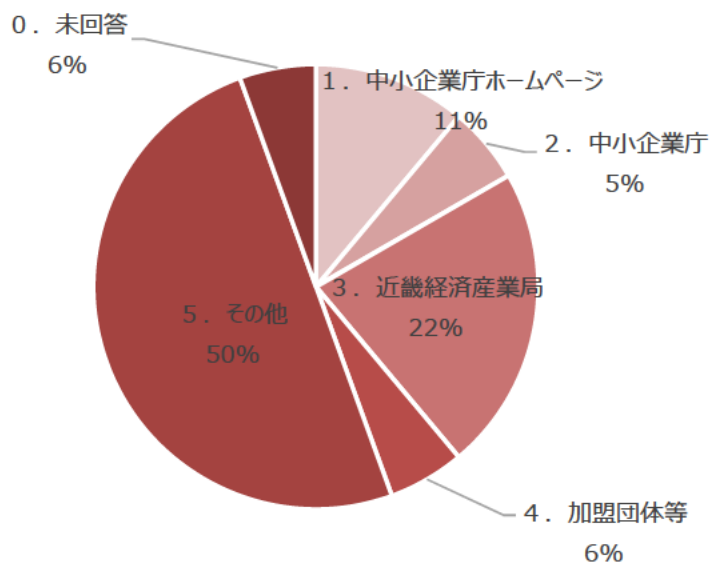
概要：

- ・商店街が空き店舗を改装して設置した乳幼児を連れただお客様が利用可能な「ランチカフェ雑貨店 tocotoco...」等を踏査。Tocotoco...を通じて、若者や子育て世代を中心に商店街に関わる方が増え、活性化に繋がっている様子を視察。
- ・意見交換会においては、商店街に関わる人をどのように増やすか／協力してもらうか、どのように組織改革を行ってきたか、商店街の「活性化」とは何かなどについて、活発な意見交換を行った。

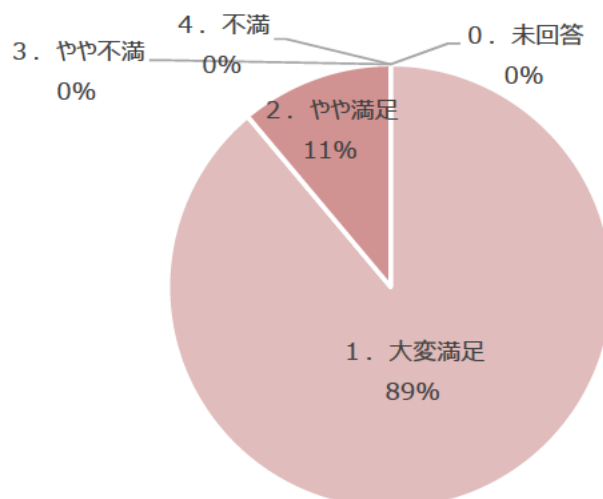


参加者アンケート結果 (N=18)

(a) 視察・意見交換会の開催についてどこから情報を得たか。



(b) 視察・意見交換会の満足度



(c) 特に参考になった議論や全体の感想

- ・外から新しい考えを取り入れて動くことで、全体が動いたというプロセスが参考になった。
- ・商店街のメンバー以外の方にも応援・協力してもらうことも大切であると感じた。
- ・店舗と消費者の関係ではなく、商店街や街に関わる人を増やすことが重要だと再認識した。

【8】七日町商店街振興組合/山形まちづくり株式会社

開催日時：令和6年11月27日（水）13:00-15:30

開催場所：山形市 中央公民館

参加人数：20人

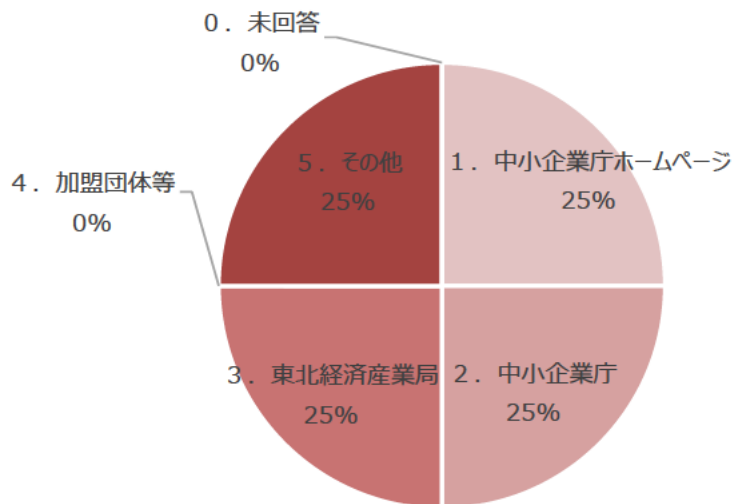
概要：

- ・商店街視察においては、町のシンボルである「水の町屋七日町御殿堰」や商店街が運営する駐車場で、地域住民の交流の場となっている「N-GATE」等を訪問。来やすくして過ごしやすい、まちづくりの様子を伺った。
- ・意見交換会においては、行政との関係性をどうやって構築しているのか、継続性や経済的自立を維持しつつ、世代交代を進められる商店街組織の仕組みはどのようなものかなどについて、活発な意見交換を行った。

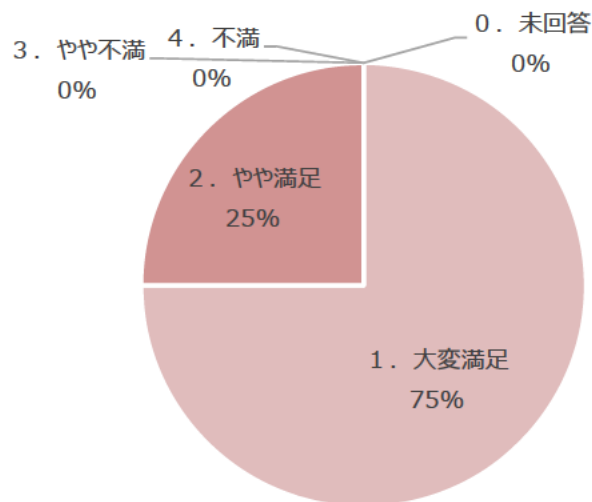


参加者アンケート結果（N=12）

(a) 視察・意見交換会の開催についてどこから情報を得たか。



(b) 視察・意見交換会の満足度



(c) 特に参考になった議論や全体の感想

- ・意思決定のプロセスがシステムティックで世代交代をできる仕組みを取り入れられていると感じる。
- ・自治体の方も若い時から取り組みに巻き込まれて育っていく仕組みが参考になる。

【9】福知山フロント株式会社/福知山駅正面通商店街振興組合

開催日時：令和6年11月20日（水）14:00-16:30

開催場所：市民交流プラザふくちやま

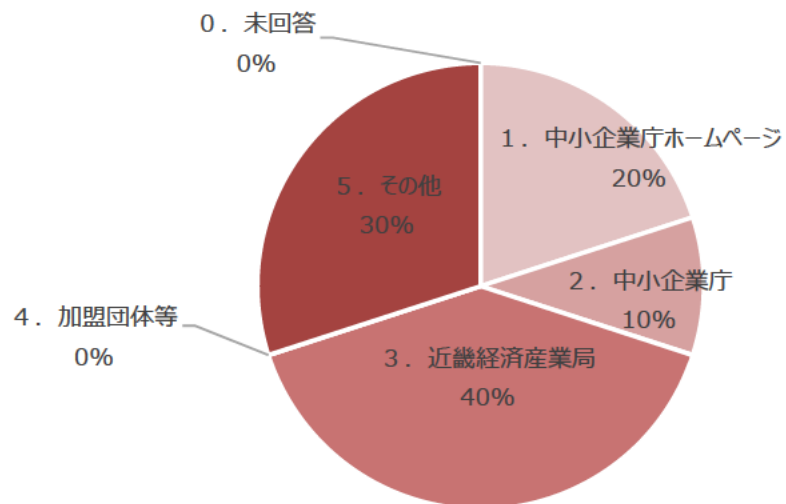
概要：

- ・元パチンコ店を複合商業施設に改修したビル、店舗をリノベーションした宿泊施設、移住者が開店した菓子店等を踏査し、テナントミックスにより魅力的な個店が集まっている様子を視察。
- ・意見交換会においては、ベテランから若手への世代交代のポイント、組織体制、行政との連携などについて、活発な意見交換を行った。

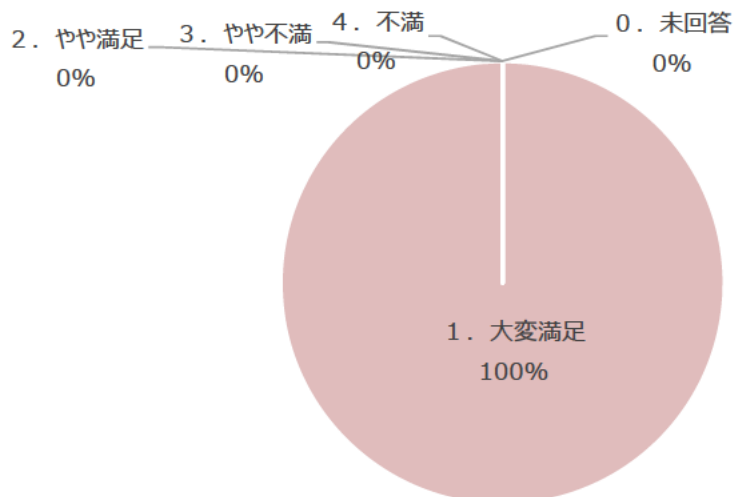


参加者アンケート結果 (N=10)

(a) 視察・意見交換会の開催についてどこから情報を得たか。



(b) 視察・意見交換会の満足度



(c) 特に参考になった議論や全体の感想

- ・どの地域にもキーマンがいらっしゃる。チーム作りと行動力が鍵と思った。
- ・ローカルな魅力的なお店が集積しているというブランディング戦略
- ・若手の育て方、組織作り

【10】松山市商店街連盟

開催日時：令和7年2月13日（木）13:00-15:30

開催場所：一番町ホール

参加人数：28人（応募者13人）

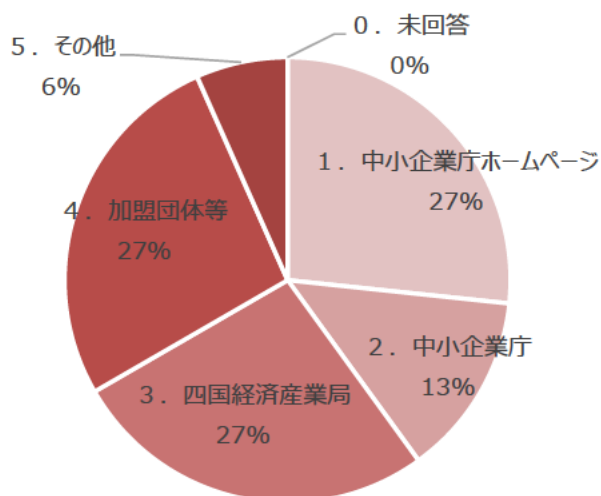
概要：

- ・松山市商店街連盟の事務局を務める「まちづくり松山」の事務所やその1階に所在し商店街のお客さんが休憩所やトイレ・キッズスペースなどを無料で利用できる「きらりん」、また、6面マルチスクリーンを活用して来街者に見どころ等の情報発信を行う愛媛県・松山市の観光インフォメーションセンター「だんだん info」等を訪問。
- ・意見交換会においては、商店街連盟に加盟する商店街組織や商店主、行政、商工会議所、まちづくり会社等が連携するための仕掛け作り、道後温泉で三津浜で人気のパンを販売するといった異なる商店街の商店主がコラボした共同販売促進事業等、商店街の垣根を越えた共同事業を行う際のポイント、観光客や若者向けに実施しているスタンプラリー事業におけるデジタルツールの活用方法などについて、活発な意見交換を行った。

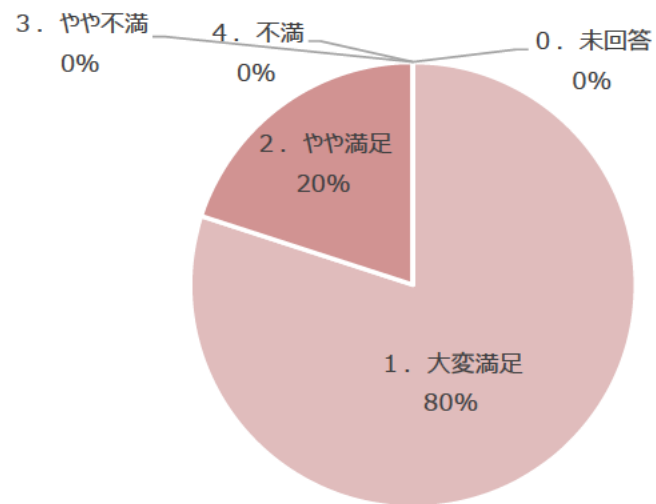


参加者アンケート結果（N=15）

(a) 視察・意見交換会の開催についてどこから情報を得たか。



(b) 視察・意見交換会の満足度



(c) 特に参考になった議論や全体の感想

- ・商店街が集まってお互いの困っている点を話し、みんなでよくしていこうという気持ちが伝わった。
- ・システムを広げるために直接個店を訪問され信頼を築かれていたことに納得した。

(3) 表彰式等の実施を通じた意識調査

①表彰式概要

地域の個性や多様性を伸ばし、エリア価値を高めることによって、持続可能なまちづくりに繋げる創意工夫を凝らした取組を行う商店街組織等を表彰する「地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024」について、令和6年7月23日、経済産業省内において、表彰式を執り行った。表彰式においては、受賞した商店街組織等の代表者に対し、齋藤経済産業大臣から感謝状を授与した。

【表彰式の次第】

14:30	表彰式開始
14:30～14:35	経済産業大臣挨拶
14:35～14:45	表彰・写真撮影
14:45～14:50	受賞代表者ご挨拶
	福知山フロント 株式会社 事務局長 奥田 友明 様
14:50	表彰式終了

【感謝状】

感謝状を作成し、表彰式にて経済産業大臣から受賞者へ授与された。



②座談会概要

表彰式に続いて行われた受賞者と齋藤経済産業大臣との座談会においては、受賞者から受賞した取組について説明いただくとともに、その後商店街を活かした地域経済の活性化等について意見交換を行った。

【次第】

- 15:00 座談会開始
- 15:00 中小企業庁長官による趣旨説明
- 15:01～15:11 前半（冒頭長官発言、各1分×5者、意見交換5分）
- 15:11～15:21 後半（冒頭長官発言、各1分×5者、意見交換5分）
- 15:21～15:25 経済産業大臣挨拶（まとめ）

【当日の様子】

当日は、中小企業庁長官が進行を行い、各地域の受賞者に対して経済産業大臣が所感・質問を述べ、受賞者との間で意見を交わした。



③受賞者アンケート結果

選定されたことによる影響、他の受賞者や視察・意見交換会の参加者との意見交換等の実施前後で受賞者の考えや課題認識、取組意欲等にどのような変化が生じるかを把握するため、受賞者アンケートを実施した。

【アンケート概要】

- ・設問数 : 選択形式 11 問、自由記述 6 問
- ・アンケート実施期間 : 3月5日（水）～3月31日（月）
- ・アンケート対象者 : 地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024 受賞者 計 10 者
- ・回答数 : 10 者
- ・調査手法 : メールでの用紙記入による回答
- ・設問一覧 :

1. 受賞について

①「地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024」を受賞してよかったですか。

また、その理由を教えてください。（具体的に記載）

②受賞後の取材や視察・問合せは増えましたか。

2. 表彰式・座談会・交流会について

- ①経済産業大臣との「座談会」についてどのように感じましたか。
- ②表彰式・座談会終了後の「交流会」についてどのように感じましたか。
- ③表彰式・座談会・交流会について、お気づきの点や感想があれば記載してください。（自由記載）

3. 視察・意見交換会について

- ①視察・意見交換会の実施を受け入れてよかったと思いますか。
また、その理由を教えてください。（具体的に記載）
- ②視察意見交換会に係る事前の準備作業や当日の対応に関する負担感についてお伺いします。
- ③視察・意見交換会の実施は、参加者である商店街に関わる者との横の繋がり構築に寄与しましたか。
- ④視察・意見交換会の参加者と意見交換等を行うことにより、今後に活かすような新たな気づきはありましたか。
- ⑤視察・意見交換会について、お気づきの点や感想があれば記載してください。（自由記載）

4. 受賞の影響

- ①受賞したことにより、今後の活動に対する考えや課題認識、取組意欲に影響がありましたか。
「ある」または「どちらともいえない」と回答した方は、具体的にどのような影響があったかご教示ください。
- ②受賞したことにより、行政や支援機関からの協力が得やすくなったなどありますか。
「ある」と回答した方は、具体的な機関名と協力内容をご教示ください。

5. その他

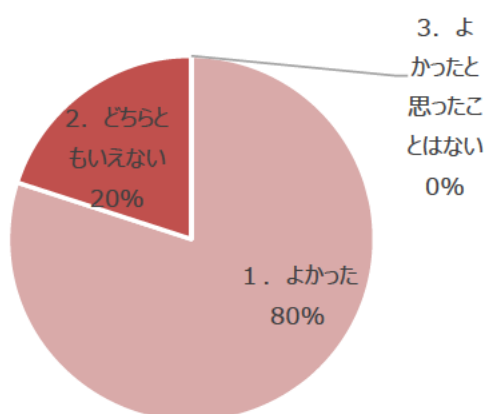
本表彰事業について、改善した方がよいと思うところがあればご教示ください。（自由記載）

【アンケート結果】

1. 受賞について

①「地域にかがやく わがまち商店街表彰 2024」を受賞について

本表彰を受賞したことに対する評価については、「よかった」と回答した受賞者 8 社（80.0%）となり、表彰を受賞したことに対して全体的に好意的に受け取っていることが分かった。



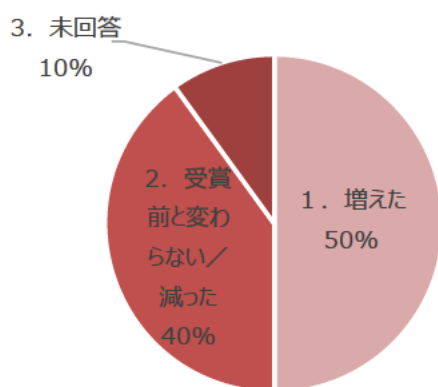
項目	実数	割合
1. よかった	8	80.0%
2. どちらともいえない	2	20.0%
3. よかったと思ったことはない	0	0.0%
合計	10	100.0%

具体的な理由としては、「これまでの取組を時系列で確認し、その都度の課題・対処方法を再確認できた」「これまで取組が評価され、多くの組合員の意識が変わり、前向きな意見や協力店舗が増えた。」「マスコミ等に取り上げられ 他地区から講演依頼があり当団体の活動を責任もってする意識が強くなった。」「自分達の事業や取り組みが国（中小企業庁）に認められたという実感を得ることができ、商店街内部や地域における取り組みや目指すビジョンの認知度や、組織としての信頼度が向上できた。」といった意見が挙げられた。

②受賞後の取材や視察・問合せ

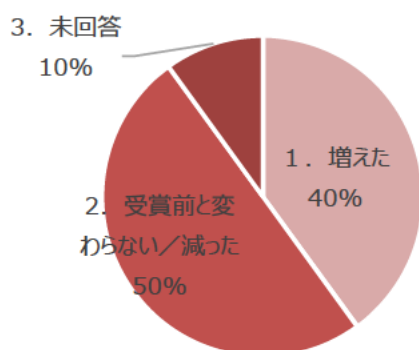
本表彰受賞後の取材、視察・問い合わせに関する設問では、取材に関しては5社が「増えた」と回答し、視察・問い合わせでは4社が増えたと回答しており、約半数の受賞者が本表彰の受賞後に外部からより注目を集めるようになったことが推測される。

(取材)



項目	実数	割合
1. 増えた	5	50.0%
2. 受賞前と変わらない／減った	4	40.0%
3. 未回答	1	10.0%
合計	10	100.0%

(視察・問合せ)

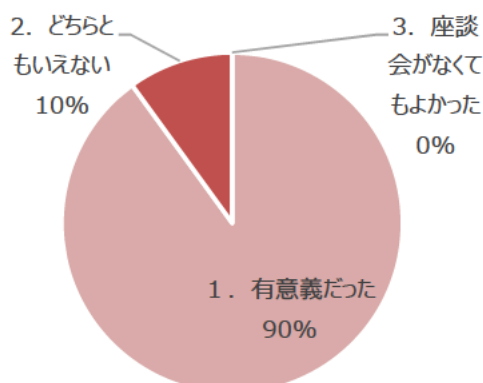


項目	実数	割合
1. 増えた	4	40.0%
2. 受賞前と変わらない／減った	5	50.0%
3. 未回答	1	10.0%
合計	10	100.0%

2. 表彰式・座談会・交流会について

①経済産業大臣との「座談会」の意義

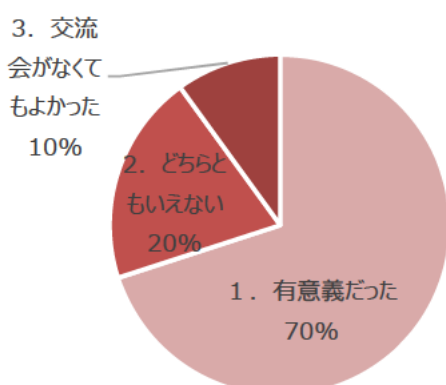
経済産業大臣との「座談会」に関する設問では、9社(90.0%)が「有意義だった」と回答し、大半の受賞者が経済産業大臣との「座談会」に意義を感じていたと判断される。



項目	実数	割合
1. 有意義だった	9	90.0%
2. どちらともいえない	1	10.0%
3. 座談会がなくてもよかった	0	0.0%
合計	10	100.0%

②表彰式・座談会終了後の「交流会」の意義

「交流会」に関する設問では、7社(70.0%)が「有意義だった」と回答し、多くの受賞者が「座談会」に意義を感じていたと判断される。



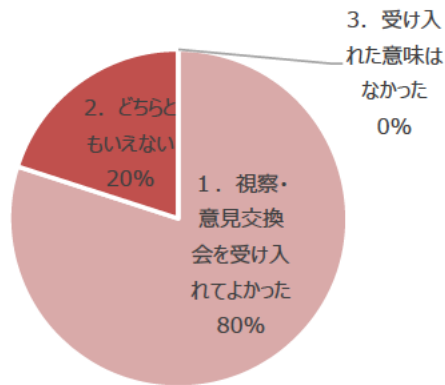
項目	実数	割合
1. 有意義だった	7	70.0%
2. どちらともいえない	2	20.0%
3. 交流会がなくてもよかった	1	10.0%
合計	10	100.0%

表彰式・座談会・交流会に対する感想としては、「大臣との直接の意見交換ができ、今まで以上にやる気が出た。」「交流会では、各商店街との意見交換や交流ができて良かった。形式だけではない人付き合いの交流ができた。」「座談会・交流会は他地域の取り組み概要を簡潔に理解することができ、その後の視察検討の参考に良かった。」との意見が示された。一方で、座談会・交流会ともにより長い時間での交流を望む意見もあった。

3. 視察・意見交換会について

①視察・意見交換会の実施の受入れについて

視察・意見交換会に対する評価については、「視察・意見交換会を受け入れてよかった」と回答した受賞者が8社(80.0%)となり、視察・意見交換会の受け入れを好意的に受け取った表彰者が多いことが分かった。

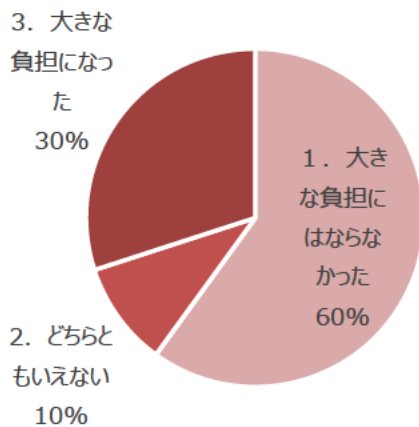


項目	実数	割合
1. 視察・意見交換会を受け入れてよかった	8	80.0%
2. どちらともいえない	2	20.0%
3. 受け入れた意味はなかった	0	0.0%
合計	10	100.0%

受け入れてよかった理由としては、「今回の意見交換会により、他の商店街関係者とも繋がり、闊達な意見を交換することができるようになった。」「多くの方に地域へ足を運んでもらうきっかけとなった。」「人に伝えることで、自分への再認識ができた。」「取組について、有識者や他地域の方の言葉で表現・評価されることで、実施主体としても新たな気づきを得られた。」との意見があげられた。

② 視察・意見交換会に係る事前の準備作業や当日の対応に関する負担感について

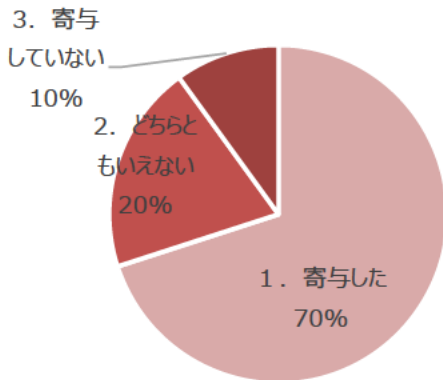
視察・意見交換会に係る事前の準備作業や当日の対応に関する負担感については、「大きな負担にはならなかった」と回答した受賞者が6社（60.0%）いる一方で、3社が（30.0%）が大きな負担になったと回答した。



項目	実数	割合
1. 大きな負担にはならなかった	6	60.0%
2. どちらともいえない	1	10.0%
3. 大きな負担になった	3	30.0%
合計	10	100.0%

③ 商店街に関わる者との横の繋がり構築への視察・意見交換会の寄与について

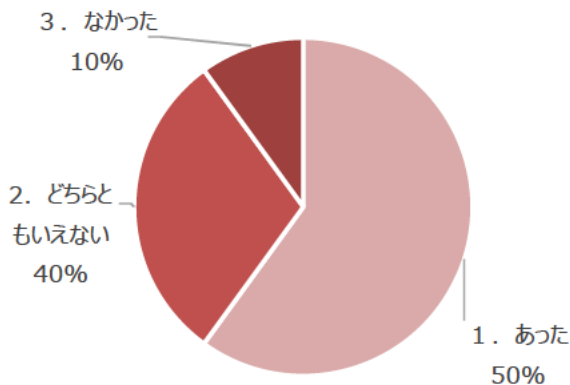
商店街に関わる者との横の繋がり構築への視察・意見交換会の寄与については、「寄与した」と回答した受賞者が7社（70.0%）となり、肯定的に評価している表彰者が多いことが分かった。



項目	実数	割合
1. 寄与した	7	70.0%
2. どちらともいえない	2	20.0%
3. 寄与していない	1	10.0%
合計	10	100.0%

④ 視察・意見交換会の参加者と意見交換等を行うことによる新たな気づき

視察・意見交換会での意見交換で、今後活かすような新たな気づきの有無に関しては、「あった」と5者が回答し、4社が「どちらともいえない」（40.0%）と回答し、回答結果が半数に分かれる結果となった。



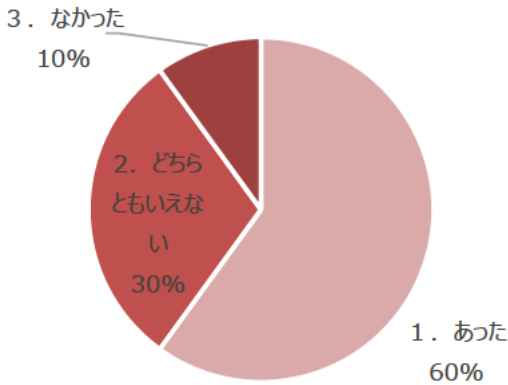
項目	実数	割合
1. あった	5	50.0%
2. どちらともいえない	4	40.0%
3. なかった	1	10.0%
合計	10	100.0%

視察・意見交換会全体に関する感想としては、「同じような問題を抱えている商店街の関係者と意見交換ができてよかった。」「日頃からの取組が他の商店街から注目を集めていることを実感し、今後の事業へ役立つ方法を考えることにつながった。」「受賞したことにより、周囲の認識度が高まった。」などの意見が挙げられた。

4. 受賞の影響

①受賞したことによる今後の活動に対する考えや課題認識、取組意欲への影響

受賞したことにより、今後の活動に対する考えや課題認識、取組意欲に影響に関しては、「あった」と6者(60.0%)が回答し、3社が「どちらともいえない」(30.0%)と回答した。受賞後の視察・意見交換会などが今後の活動の活性化に向けた契機となる可能性があると判断される。



項目	実数	割合
1. あった	6	60.0%
2. どちらともいえない	3	30.0%
3. なかった	1	10.0%
合計	10	100.0%

【全体を通しての振り返り】

本表彰を受賞したことに対して全体の8割が「よかった」と評価し、「表彰式・座談会・交流会」「視察・意見交換会」についても有意義であったもしくは受け入れてよかったとの回答が示された。

表彰を受けたことによるよかった理由としては、対外的な評価を受けることで、受賞者をはじめとした地域の関係者のモチベーション向上につながった点、自身の地域における課題を再度認識するきっかけとなったなどが挙げられた。

特に視察・意見交換会では他地域の商店街関係者や外部有識者によって自分たちの取組が評価されることで、新たな視点での気づきにつながったとの意見が多く示された。

④その他の製作物

表彰式の運営のため、バックスクリーン、看板、胸花を作成した。式典看板とバックボードは、本事業の広報を目的とし、多数の写真を撮影し、プレスリリースや中小企業庁 HP・SNS 等で活用が行われた。

本事業を広く周知するにあたり、写真撮影時に使用することができる。式典看板・バックボードを準備した。バックボードは、本事業のロゴマークと経済産業省のロゴマークを活用した。



(4) 調査結果等の取りまとめ

(1) 商店街組織等における取組事例等の深掘り調査、(2) 商店街活性化に関する意識調査、(3) 表彰式等の実施を通じた意識調査の結果等をとりまとめ、他の商店街組織等の参考となるよう中小企業庁ホームページ等で横展開するためのコンテンツを作成した。

Web での可視性を高めることを目的として HTML 版を作成するとともに、印刷して活用ができるように PDF 版を作成した。

事例集に関しては、PDF 版では合計 4 ページで構成している。構成としては、取組の背景を整理し、取組のポイント 3 点、取組の成果の流れで作成している。有識者の視点と商店街の概要に関しても記載を行っている。

取組のポイントは、各受賞者の特徴に応じて作成を行い、図や写真などを活用して作成を行った。

有識者の視点は、有識者ヒアリングの内容を元に作成し、「取組事例のポイント」と「他商店街で参考とするポイント」の 2 点を中心として話を取りまとめた。

経済産業省中小企業庁「地域づくり」がむかし商店街振興2024「賢良有徳事業」
協同組合唐戸商店会

組織統合により推進体制を確立して地域再生に取り組む

【山口県下関市】一般社団法人からまち・協同組合唐戸商店会

- 唐戸エリアの6商店街を協同組合と振興組合の2組織に統合。新たに設立したまちづくり会社が2組織の事務局を担うことで、組織運営の一元化と事務の効率化に成功。
- 下関市の支那のもと「観光ウォーカー都市唐戸」を日版し「5カ年計画」を策定。計画に基づき、テナントミックス事業やにぎわい創出イベント、パークレットの設置など、多様な事業を展開。

1 取組の背景

下関市の人口は、40年後には10万人の人口が減少すると推計されており、域内消費の減少に対応するため、域外からの来街者の増加に向けた取組など、唐戸エリアの活性化に向けたまちづくりに取り組む必要性に迫られていた。

唐戸エリアには、協同組合唐戸商店会と赤間通り商店街振興組合と4つの通り会（任意団体）の計6商店街がそれぞれ活動を行っていたが、各商店街が活性化の進むアーケードの管理問題を懸念するともに、新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の停滞などの影響による解散の危機にも陥っていた。

2 取組のポイント

ポイント① 推進体制の確立（組織の統合とまちづくり会社の設立）

唐戸エリアの6商店街は、約20年前から統合の必要性を認識し、統合に向けた議論は行われていたが、歴史的な経緯や克服すべき課題が多くあり実現できていなかった。

振興組合理事長（当時・副理事長）は、唐戸エリアの活性化に向けた取組を進めるためには、老朽化の進むアーケードの回廊として、安全な歩道後方に向けて対応することが必要であると判断。商店街振興の統合を旨とし、各商店街に対し統合の必要性を繰り返し説いていった。

振興組合理事長が商店街振興組合の調査を行うのと同時に、協同組合が中小企業庁の外部人材活用・地域人材育成事業に採択され（令和3年度）、ワークショップを開催。専門家を交えて唐戸エリア再生のための4つの方向性を議論し、明確化し、議論した方針を日々コミュニケーションの中で他の5つの通り会の会員に共有し、唐戸エリア再生に向けた推進体制の確立を進めた。



【図】協同組合唐戸商店会エリア

<唐戸エリア再生のための方針>

- ① 都庁を再生するための組織の設立
- ② 現状存在する商店街組織を包括する
- ③ 観光要素を商店街へ取り入れる
- ④ ワークスペースを空間で回遊性の向上を図る

令和5(2023)年に4つの通り会を協同組合唐戸商店会に統合。協同組合唐戸商店会と赤間通り商店街振興組合の2組織とする事になった。

また、商店街の有志7名により、2つの商店街組織の事務局や唐戸のまちづくりを担うまちづくり会社「一般社団法人からまち」を令和4年5月に設立。これにより唐戸エリアの商店街組織を一元化することに成功した。

組織を統合するための合意形成は非常に大変だったが、アーケードは、国が管理してくれと考えている人が多かったため、我々の所有物や全てを自ら責任を負う必要があること、仮に事故が起きたら「唐戸」に帰属させ、唐戸エリア全体に影響する可能性があることを説明し、まちづくりがチームとなって取り組むことが必要であると説き説いたことにより統合に繋がった。

【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

経済産業省中小企業庁「地域づくり」がむかし商店街振興2024「賢良有徳事業」
協同組合唐戸商店会

組織運営・5カ年計画の策定

<組織運営>

一般社団法人からまちが、協同組合と振興組合の事務局を担うことにより、これまで商店街毎に行っていたアーケード、照明、消防施設等の管理運営、保険・電気代などの管理の一元化によるコスト削減、視認性を向上させるための全体の経理の見直し、情報管理「はこまち」申請の窓口の一本化による事務作業の効率化などを実現。

また、事務手続の簡略化のため、賦課金と回収期から定期制に変更し、これまで手集金であった賦課金を銀行引き落としに変更することで回収遅れを防ぐなどの改革も実施した。

一般社団法人からまちが行う事業の費用は、設立時の出資金に加え、協同組合と振興組合の組合員が支払う賦課金の50%を充てている。

【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

アーケード管理の費用を考慮すると現在の賦課金の額は低いが、一般社団法人からまちが中心となって行う事業の成果が大きいまでは、賦課金の値上げは行わない予定。地方、国や自治体の補助事業を有効に使いながら事業を行うためには、自主財源をしっかりと確保する必要がある。組織として継続的に運営するためには、商店街が「無難」で運営している事業に重点を置かないといけない。収益事業を殖やして行くことが今後の課題である。

組織の効率化を図るだけでなく、まちづくりのためのプロジェクトを実施する組織として継続・発展していくために、一般社団法人からまちは、若手の意見を積極的に取り入れる方針を得ている。青年部を立ち上げ、青年部が中心となって企画・運営を行うナイトマーケット（安価な料金で出店が可能なおもてなし）を実施するなど、若手が活躍できる場を設けている。年長者が助言を行うことにより、次世代育成にも繋げている。

【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

年長者は若者を応援し、必要に応じてブレーキをかける役割。青年部に対してだけでなく、若い出店者にもなるべく手厚く優しく、長く商売をしていってほしいという声も届いている。若い人にも関わっていただくようお願いしている。

<5カ年計画の策定>

一般社団法人からまちは、商店街エリアの公共空間を最大限に活用するため、令和6年3月に下関市から都市再生推進法人の指定を受けた。これにより、エリア内の歩道空間等、公共空間が活用が円滑に実施できるようになった。また、令和6年12月には、下関市から地域再生推進法人の指定を受けた。

<5カ年計画の策定>

一般社団法人からまちはの設立にあたり、下関市から「街を一つに束ねて動かしていくためには、総合的な計画を立てる必要がある」と指摘があり、商店街関係者と下関市との間で、下関市の支援を受けて、「観光ウォーカー都市唐戸」をまちの方向性として定め、地産地消の推進や先達地域の関係者へのヒアリングなどを実施し、どのような事業を行っていくかを定めた「5カ年計画」を令和4年に策定した。

5カ年計画	<ハード関連事業>	<ソフト関連事業>
	<ul style="list-style-type: none"> 商業系コア事業地産地消事業 ワークスペースを回遊性による回遊性向上事業 都市再生推進法人の指定による公共空間等の活用事業 リノベーション事業 サブリース事業 AIカメラによる来街者動向分析調査事業 	<ul style="list-style-type: none"> 唐戸エリアの商店街事務統合事業 出店サポートセンター事業 唐戸周辺情報の集約発信事業 人材育成事業 キャッシュレス推進統合事業 パル事業

【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

協同組合は、約1年間半にわたり毎月2時間、各商店街から理事約10名、市役所から約5名が参加して開いた。当初は、一般社団法人からまちはを立ち上げ、地域としてワンチームにしたいという思いがあった。これらからまちを立ち上げるための方向性を定めた。

専門家に頼りすぎずと他のエリアの認定標準に左右される懸念があり、下関の風土や文化を踏まえてまちづくりを推進し、協同組合にあって専門家を上手に活用し、一般社団法人からまちはの立ち上げから専門家を効果的に活用している。また、まちづくりがまちづくりの推進に必要不可欠な役割を担っている。まちづくりの推進に必要不可欠な役割を担っている。まちづくりの推進に必要不可欠な役割を担っている。

【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

5カ年計画の策定にあたり、商店街としての存在意義（ミッション）と目玉アベキ業（ビジョン）を明確化する必要がある。商店街全体が一体となった取組を実施した。今後、地域一帯に広がる地域づくりの推進とまちづくりの推進に向けて事業を行っていく。【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

経済産業省中小企業庁「地域づくり」がむかし商店街振興2024「賢良有徳事業」
協同組合唐戸商店会

「観光ウォーカー都市唐戸」を目指すための具体的な取組

「5カ年計画」に基づき、補助金等を活用しながら「観光ウォーカー都市唐戸」の実現に向けた事業を展開。組合員加入率もメットも順調に伸びている。

【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

人も多くても、人が集まるための条件は多岐にわたる。ウォーカー都市の街並みに沿った歩道が見えてきている。AIカメラやAIカメラを使ったまちづくり。まずは唐戸エリアのまちづくりの推進に必要不可欠な役割を担っている。まちづくりの推進に必要不可欠な役割を担っている。まちづくりの推進に必要不可欠な役割を担っている。

AIカメラ

商店街エリア内に2箇所、唐戸商店街（約1.1km）に、防犯カメラ（モデル1）1個、AIカメラを設置（令和4年9月現在）。来街者の属性や動向のデータを取得。

- 取得したデータをもとに人混みの変化や歩行者動向について専門家によるデータ分析を実施。
- 防犯カメラとして、安心安全なまちづくりに貢献。

平日と週末による人混み変化が顕著になり、来街者の属性や動向がわかるようになった。そのデータを基に、まちづくりの推進に必要不可欠な役割を担っている。まちづくりの推進に必要不可欠な役割を担っている。まちづくりの推進に必要不可欠な役割を担っている。

【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

コンテナショップ

観光客エリアからの回遊性向上と商店街での創業支援としてコンテナショップを設置。商店街への出店を前倒しして3~6月の期間限定で営業を推進。

- 初期設備無料（希望する什品の無料貸出し）、電気代2ヶ月無料、POSシステム無償貸与。POSとAIカメラのデータで、購買データの分析が可能。

問い合わせは年300~400件あり、登録件数約200件に対して100%が出店した。事業計画に加え事業が順調に進んでいる。唐戸の出店していただければと期待している。最終目的は組合員が増えること。

【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

パークレット

山口大学との協働により、来街者が休憩し子供が遊べる場所として、公園施設を創出。地域活性化にも繋げている。

- AIカメラを付近に設置することにより、人流データも収集。

【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

アプリ開発

組合員を中心とした店舗紹介と観光情報や駐車場情報集約したウェブアプリ「からまちアプリ」の開発と、連携したエリアマップの作成。

- モデル観光コースを掲載し、初めての来街者でも分かりやすくまち歩きできるように工夫している。

イベント

商店街での消費、にぎわいを創出するためのイベント（餅まき、スタンプラリー等）を実施。イベント中の特設ブースで、商品販売や配布品を販売し、イベント後の消費促進にも繋げている。

- イベント出店時の出店料を組合員と非組合員で差を設け、組合員のメリットを創出。
- 電源やトイレなどイベント運営に協力する店舗の出店料を下げるなど、イベントの運営の効率化も工夫。

【唐戸が全業種】のタイトルで毎年一度開催される。その中で唐戸エリアの商店街組合員が約3000万の商品を売っている。1,000万円以上の波及効果がある。

【一】からまち 副理事長・唐戸 協同組合理事長

デジタルサイン

お店の宣伝となるコーマシビジョを補助事業を活用して作成し、LEDビジョンで放映。

- 組合員サービスとして一般社団法人からまちが補助事業申請を行い、自己負担も負担。

その他

- アーケードの一部撤去・補修
- イベント対応策（看板作成・メニュー印刷）
- 協同組合が行う補助金の申請サポート（D-04の共有、書類作成支援）
- 空き店舗を活用したまちカフアの営業
- 既存建築物調査（再開発エリアの明確化）
- 子連れコワーキングの提供 など

経済産業省中小企業庁「地域づくり」がむかし商店街振興2024「賢良有徳事業」
協同組合唐戸商店会

取組の成果

唐戸エリアに存在した4つの通り会を協同組合唐戸商店会に統合。協同組合唐戸商店会と赤間通り商店街振興組合の2法人とし、2法人の事務局を一般社団法人からまちに一元化することにより、「観光ウォーカー都市唐戸」を目指して唐戸エリアがワンチームで取り組む体制が整備された。

事務局の効率化や、下関市の協力により策定した「5カ年計画」に基づき既存事業・新規創業支援により、組合員となるメットが増え、協同組合の組合員数は、約60名（令和2年度）から約100名（令和4年4月）に増加。振興組合は約25名（令和2年）から約30名（令和4年3月）と増加している。

コンテナショップは、常時年先まで予約が埋まるなど新規出店希望者の関心が高まっている。これまでコンテナショップに出店した3店舗が、商店街内に移転している。

青年部主催で開催されているナイトマーケットでは、商店街内の3つのエリアに約20店舗が出店し、一晩で約2,500人の人混み確認されている。

一般社団法人からまちは、「地域にかなうおもしろ商店街」の受賞により、新規事業に必要な資金を商工中金から中央倉庫貸付制度（国）の適用による融資を受けた。

※商工中金と中小企業団体中央会が定める支援テーマに積極的に取り組む、中小企業団体の推薦を受けた中小企業団体に対し、商工中金が融資の金利優待を行う制度で、「地域にかなうおもしろ商店街」の受賞者は、本制度の対象となる。

所有者の視点

取組事例のポイント

6つの商店街組織を協同組合と振興組合の2つに統合。新設のまちづくり会社が両組織の事務局を担うことで、組織運営の効率化が図られるとともに、アーケードの管理問題に地域一帯となって取り組む体制ができた。このような推進体制の確立が、商店街組織解散の危機から180度転換し前向きに唐戸エリアの再生に取り組む状況を生み出している。

都市再生推進法人や地域再生推進法人の指定による公共空間利用促進など、国や自治体の制度や補助金なども積極的に活用するとともに、商店街を若手が活躍できる場とするなど、新しい発想でのエリア再生にも期待されている。

また、パークレットの設置、コンテナショップの運営、イベントの実地だけでなく、AIカメラやPOSの活用、来街者向けアプリの導入により商店街のスマート化を進めることにより、公共空間「かがのく」が少しずつ増え、それが周辺にも波及する見込みがある。

他商店街で参考とするポイント

まちづくり会社が地域の商店街組織をとりまとめ、商店街の組合員のための取組に加えて収益化できる事業を行い、収益をエリア再生のために活用している仕組みを構築していく手法が参考になる。他の商店街の取組を参考にしつつ唐戸エリアに馴染み形で取り入れることもポイントである。

また、中長期的な視点として、商店街エリアの老朽化した建物が更新される際には、「観光ウォーカー」のために実施している現在の取組の経験を活かし、道路を中心とする公共空間の更新と道の建物の更新を複合化により更に魅力的なエリアとする。太陽光パネル等の設置によるカーポシエナブルへの貢献や暑熱対策、雨水マネジメントなどの環境的側面への配慮も重要となる。こうした視点も踏まえて、ハード・ソフトが連携した高度なソリューションを持ち、各主体が前向きに活動できる仕組みを作っていくことが求められる。

1 商店街概要

名 称：一般社団法人からまち/協同組合 唐戸商店会
所在地：山口県下関市唐戸2番12号1号ビル1階
電 話：083-242-0020
U R L：https://kara-machi.com/（一般社団法人からまち）
https://katoshoutenkaitores.jp/（協同組合 唐戸商店会）

会員数：約100名
店舗数：116店舗
（協同組合唐戸商店会のみ）



ポイント3 「観光ウォーカー都市戸戸」を目指すための具体的な取組

以下が具体的な取組です。観光客等が楽しめる「観光ウォーカー」都市戸戸の実現に向けた取組を実施し、観光客に滞在するポイントも増やしている。

- （一）観光ウォーカー推進協議会（協議会）**
- 観光ウォーカー推進協議会（協議会）を設立し、観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。
- 取組内容**
- 観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

（一）観光ウォーカー推進協議会（協議会）

観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

- 観光ウォーカー**
- 観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

（一）観光ウォーカー推進協議会（協議会）

観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

- 観光ウォーカー**
- 観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

観光ウォーカー

- 観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

観光ウォーカー

- 観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

（一）観光ウォーカー推進協議会（協議会）

観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

- 観光ウォーカー**
- 観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

その他

- 観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

取組の成果

観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

有識者の視点



教授 大塚 誠

取組事例のポイント

観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

観光客で参考とするポイント

観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。観光ウォーカーの推進に関する取組を進めています。

商店街概要

名 称：一般社団法人からまち「観光ウォーカー推進協議会」
 所在地：山口県宇部市戸戸2丁目1番1号
 電話：083-747-0010
 郵便：740-0006
 代表者：代表理事 大塚 誠
 URL：http://www.kawakita-shops.jp/



印刷はこちらから(PDF 745KB)

経済産業省中小企業庁「地域にかなう」2024年度商店街振興会
 振興活動の推進を支援する事業

住民と観光客が共に過ごしやすいまちづくり

【岡山県矢野町】一般社団法人 やかげまると商店街振興会

- これまで活かされていなかった「矢野宿」の風情を残すまちなみを活かして、地域全体を「まるごと道の駅」として定義し、商店街を活性化するために、個店の中心に加え地域全体の魅力も向上させている。
- 商業に従事しない住民が多い地域において、商店街の中心となり住民の意見を地域活性化に反映することによって、住民と商店街の距離も狭く、住民も観光客も過ごしやすいまちになっている。
- 商店街が活性化に取り組みという明確な意思を持って町や観光交流推進機構等と協力して活動し、まち全体・商店街の魅力を高めている。

1- 取組の背景

矢野商店街は、旧山陽道の宿場町として全国でも唯一本陣と脇本陣が存在する貴重な町並みを有し、観光客の増加、若年層の減少など社会環境の急激な変化により、来街者が減少、後継者がいない事業者も多く、2015年の時点で事業者は約60店舗となった。

矢野町は、宿場町としての歴史的背景やまちなみを活かして、観光促進によるまちづくりを進めており、まちへの来訪者増加と商店街への誘客を一体として推進する必要が生じた。

長年に渡り商店街活動（任意団体）を行ってきた商店街等の有志が、2016年（平成28年）に「やかげまると観光隊」（任意団体）を結成し、商店街の活性化と誘客促進のための活動を開始。2019年には活動の拡大を目指し「一般社団法人やかげまると商店街振興会」として設立登記を行った。

1- 取組のポイント

ポイント① 商店街を中心とするまち全体を「道の駅」として定義し、地域全体の魅力を高める

矢野町は、既存の宿場町の歴史的な背景やまちなみを活かして、宿泊施設の設置、古民家再生などの、観光客増加を目指す取組を進めており、道の駅の設置を検討。これに対し、振興会内から、道の駅の飲食・物販機能を持つと商店街への来訪者増加の可能性が高まることを提言する声が上がったことから、振興会は矢野町や中国土交番前に対し、「道の駅」には飲食・物販機能を設けたいことを提案。

道の駅は「上りの玄関」としての役割のみを担い、商店街が飲食・物販の役割を担うこととし、商店街を含む周辺エリアを「まるごと道の駅」として定義し、地域全体の魅力を高めるまちづくりを行うことにより、商店街の活性化に繋げる「まるごと道の駅」を振興会が中心となって行うこととなった。

「まるごと道の駅」概要

道の駅山陽道やかげまると宿場町と、矢野宿が飲食・物販機能として道の駅の駅舎と一体化し、「まるごと道の駅」として地域の魅力を高める。

- 1. 矢野宿の歴史を継承する**
 道の駅は、既存の宿場町の歴史的な背景やまちなみを活かして、宿泊施設の設置、古民家再生などの、観光客増加を目指す取組を進めており、道の駅の設置を検討。これに対し、振興会内から、道の駅の飲食・物販機能を持つと商店街への来訪者増加の可能性が高まることを提言する声が上がったことから、振興会は矢野町や中国土交番前に対し、「道の駅」には飲食・物販機能を設けたいことを提案。
- 2. 道の駅（山陽道やかげまると）**
 2021年（令和3年）に開設。飲食・物販機能のほか、観光客向けに「まちなみ」の紹介や「まち歩き」の案内を提供する。
- 3. 旧本陣・脇本陣**
 参加型観光施設やまち歩きコースの整備などを行い、観光客の滞在時間を長くし、まち歩きを促進する。
- 4. 観光ビュースター**
 観光客の滞在時間を長くし、まち歩きを促進する。

商店街への来訪者増加のために、まちの魅力を高めるだけでなく、商店街を活性化させるための「まち歩き」の案内を提供する。

経済産業省中小企業庁「地域にかなう」2024年度商店街振興会
 振興活動の推進を支援する事業

ポイント② 住民の意見を反映したまちづくりを商店街が主導する

矢野商店街には約200戸が立ち並び、うち事業者は約70軒、民家は約130軒と、民家が占める割合が多い（2024年時点）のが特徴。また、事業者の中には地元顧客向けの店舗もあり、観光客向けの事業者を行う者は、商店街全体の約1割である。

商店街内に事業者が少ない、特に観光客向けの事業者が少ない状況において、振興会として、観光客の来街を増やす「まるごと道の駅」を推進し、まち全体を盛り上げるためには、観光客だけでなく、住民も過ごしやすいまちにする必要がある。振興会は、積極的に住民と意見交換を行い、振興会の活動内容など共有すること等により、住民との関係も密になり、まちづくりを行う。目に見えない商店街の活性化により、住民を含む商店街の関係者の関係も密になり、まちづくりを行う。目に見えない商店街の活性化により、住民を含む商店街の関係者の関係も密になり、まちづくりを行う。

また、振興会は、振興会設立前から商店街として約50年間に渡って実施してきた地域住民参加による「大名行列」を継続して実施していることから、企画・実行・開催後のフォローを実現できる体制が整っており、地域住民が積極的に振興会に協力する体制もあることから、これが「まるごと道の駅」としてまちづくりを行う基盤となっている。

振興会内の会議や会員間での相談の中で課題を整理し、町、矢野町観光交流推進機構（やかげDMO）等と相談・連携のうえ住民からの意見を反映したまちづくりを進める。

意見交換

矢野町民との意見交換
 商店街関係者だけでなく、矢野町民全員が参加可能な会議を主催し、意見交換や意見交換を行う。町民が参加することで、振興会の活動内容やまちづくりの方向性を住民から直接聞くことができ、まちづくりの方向性を住民から直接聞くことができる。

2023年2月開催した「やかげまるとまちづくり会議」には、
 矢野町民の意見交換やまちづくりの方向性を住民から直接聞くことができ、まちづくりの方向性を住民から直接聞くことができる。

振興会会員間の意見交換

振興会の会員間での交流、まちが抱える問題解決に向けた議論のため、振興会内の意見交換会を年に1回〜2回実施。
 「まるごと道の駅」の運営、まちづくりの方向性を住民から直接聞くことができる。

会員への定期的な情報発信

月に1回、みなら原を会員各戸に配布することにより、会員への定期的な情報発信を行っている。みなら原には、意見交換会の結果や振興会の活動内容やまちづくりの方向性を住民から直接聞くことができる。

住民への配慮

商店街の中には、商店街を生活の場として利用する住民が数多く住んでおり、観光客へのサービスを行うと商店街に負担がかかるなど、まちづくりへの協力も得られない。振興会は、常に地域の声を聞き、商店街が代弁して行政などの調整を行うことで観光と生活を両立できるまちを目指す。

会員間の意見交換においては、熱意でも熱い意見を出してはもらい、出てきた意見を整理して共有することが重要。「まるごと道の駅」で観光客が来ることにメリットがない方も多くいるので、その声も大事にしている。

観光客のために休日を歩行者天国にするとうるさな声があり、住民が車を走らせたくない声も出てきている。この声も整理して共有することが重要。「まるごと道の駅」で観光客が来ることにメリットがない方も多くいるので、その声も大事にしている。

観光客のために休日を歩行者天国にするとうるさな声があり、住民が車を走らせたくない声も出てきている。この声も整理して共有することが重要。「まるごと道の駅」で観光客が来ることにメリットがない方も多くいるので、その声も大事にしている。

経済産業省中小企業庁「地域にかなう」2024年度商店街振興会
 振興活動の推進を支援する事業

ポイント③ 商店街の限界を克服するための専門家・関係者の知見活用

「振興会」は、まちづくりの専門家ではないという認識を持って、各取組に必要な専門家や関係者の協力を得るまちづくりを行うことにより、地域全体の価値向上に貢献している。

「まるごと道の駅」を担う専門家・関係者の知見活用

- 矢野町**：まちづくりの推進を支援する。
- 矢野町出資法人**：まちづくりの推進を支援する。
- 有識者**：まちづくりの推進を支援する。
- その他**：まちづくりの推進を支援する。

「まるごと道の駅」を担う専門家・関係者の知見活用。まちづくりの推進を支援する。

矢野町のまちづくり

矢野町は、「重要伝統的建造物群保存地区の認定」「電車の地中化」「道の駅の設置」の3施策を柱に、観光客を中心としたまちづくりを推進しており、町家風の景観を整えるためのルールを策定し、対象となる建築物の管理・修繕・修景に補助を行うことで、地域全体の魅力を高めている。

振興会も矢野町の施策に積極的に協力しており、重要伝統的建造物群保存地区への「認定」に当たっては、令和2（2020）年「教育委員会が文化庁へ申請した際、認定において必要となる「商店街の7割以上の承諾」と振興会を導く役割」による申請を行った。

また、商店街への新規出店のサポートも矢野町と振興会が協力。振興会は住民に身近な団体として、一般的な不動産会社や行政では入手しにくい地域の土地に関する情報などを得ており、貸し手と借り手の双方からの信頼を得て、新規出店をサポート。矢野町は、商業・新規出店に対する補助などを行っている。「まるごと道の駅」の取組の成果もあり、商店街への新規出店が増えている。

矢野町出資法人との連携

振興会は、第3セクターである株式会社やかげまると商店街観光交流推進機構（やかげDMO）とも連携しながらまちづくりを行っている。役割分担が明確になり、組織特性を活かすことで、パフォーマンスの良い取組体制を維持している。それぞれの取組に互いが協力するなど密やかな協力を行っている。

株式会社やかげまると：特定PRや物産館などの販促イベントの実施

一般社団法人矢野町観光交流推進機構：対外的な情報発信や近隣町との連携

一般社団法人やかげまると商店街振興会：実質的な商店街活性化の実施や新規出店者誘致

関係する様々な方からの協力やサポート

旧本陣・脇本陣の地主が施設を一般公開することで、観光客が「矢野宿」の魅力を体感できる。「やかげまると探索マップ」作成時には、アイデアや資金面での援助も得た。町の出身者が大名行列の外部関係をサポートするなど多様な協力者からの支援を受けている。

まちづくりを行うにあたり、矢野町関係や町民などからのご協力も得ています。商店街がまちづくりの推進を支援する。まちづくりの推進を支援する。

まちづくりの推進を支援する。まちづくりの推進を支援する。

経済産業省中小企業庁「地域にかなう」2024年度商店街振興会
 振興活動の推進を支援する事業

1- 取組の成果

振興会が、矢野町や関係組織とともに「まるごと道の駅」として商店街を中心に観光を軸とするまちづくりに取り組んだ結果、まち全体・商店街の魅力が向上し、矢野町を訪れる観光客数は約27万人（2020年）から約55万人（2024年）に増加し、商店街の来訪者数も増加している。2020年から2023年までの3年間で6店舗が新規出店し、振興会の会員数も増加するなど、組織力も向上している。

また、振興会が観光客だけでなく住民も過ごしやすいまちづくりを目指しており、従来は商店街を活用していなかった住民が商店街の店舗を訪れるなどの変化も見られる。

有識者の視点

取組事例のポイント

「まるごと道の駅」という言葉は人々の心に響く魅力的な表現だが、この取組の真の価値は表面的な言葉ではなく、その背後にあるまちづくりにある。振興会が商店街と地域住民を第一に考え、地域全体の魅力を高めるまちづくりを目指している。この理念を行政や地域住民と協力して形にし、「まるごと道の駅」という分かりやすい言葉で表現している。こうした取組の結果、商店街には自然と多様な店舗が集まり、賑わいを感じるようになった。こうした取組の結果、商店街には自然と多様な店舗が集まり、賑わいを感じるようになった。

相談時に印象的だったのが、商店街と地域住民との関係性だった。住民が商店街の店舗で談笑する様子や、振興会との取組に関する住民の協力姿勢から、商店街と住民の距離の近さを感じた。こうした関係性を利用してまちづくりを進める上で最も重要な姿勢である。観光客が多量に訪れるだけでなく、地域住民の支持があることが長期的な発展につながる。この基盤がなければいけなくなる。この地域の魅力になっている。

もうひとつ注目すべき点は、外部協力者との関係構築の方法である。商店街関係者だけでなく、まちづくりの専門家や関係者との関係構築が重要だが、この関係構築は単に専門家に丸投げするのではなく、自分が主導権を握りながら外部の力を活用している。具体的には、商店街側が「何を補うべきか」を明確に定義し、その部分を補完できる専門家や関係者に的確に協力を求めている。これにより、それぞれの協力の強みを活かした支援を得ることができている。地元が主導権を持ち、協力の目的と範囲を明確にして必要な部分だけ連携する姿勢が、取組の質を高めている。この事例は、必ずしも有名な専門家である必要はなく、商店街の価値観を尊重し、それに寄り添える人材との協力が効果的であることを示している。

他商店街で参考とするポイント

このケースで参考になるのは、外観の美しさや統一された景観だけでなく、地元住民が日常的に商店街を利用できる環境を整えていること、商店街と地域住民が密に交流している点である。長期的な視野で住民と向き合い、その支持を得ながらまちづくりを進めているアプローチは、他の商店街でも応用できる重要な視点である。

2- 商店街概要

名称：一般社団法人 やかげまると商店街振興会 会員数：約120名
 所在地：岡山県小田原町矢野町1-6-3番地2 店舗数：67店舗（小売業35店、飲食業17店、サービス業3店、金融業2店、不動産業1店、芸術・文化サービス業3店、空店舗8店）
 電話：090-2001-0074
 （一般社団法人 やかげまると商店街振興会代表）
 URL：https://japan-yakage.jp/
 （一般社団法人矢野町観光交流推進機構）

[4] 宇宿商店街振興組合 ※PDF版・HTML版

新設商業系中小企業「地域づくり」(2024年度地域振興策) 宇宿商店街振興組合

住みやすく住民が楽しめるまちづくり

【鹿児島県鹿児島市】宇宿商店街振興組合

- 「鹿児島で住みたい街No.1」を目指し、商店街が主導して住みやすいまちづくりを推進。駅、バス停などの住民の交通アクセスの向上や防犯対策などの地域の環境整備や、イベントの実施等を通じて楽しさの提供などを実施。
- 取組を継続的に発展させるために、PDCAサイクルを継続的に回し続ける体制を構築。取組に対する評価分析や議論を組織内でしっかりと行いながら、商店街以外の様々な組織と協力して取組を進め、地域全体の活性化に繋げている。

1- 取組の背景

振興組合(前身の宇宿通り会を含む)は、地域の人口増加、商店街との接点の増加に向けて、生活しやすい環境整備や、商店街と地域社会との絆を醸成するための取組を商店街として長年推進。2005年頃から商店街地区周辺への量販店の出店が相次ぎ、来街者が減少、来街者を増やすために、「鹿児島で住みたい街No.1」を目指して取組を進めている。

1- 取組のポイント

ポイント① 住みやすいまちを作る

振興組合は、地域の人口を増やし、来街者を増やすため、駅やシャトルバス等の誘致による地域の交通アクセスの充実や、街路灯設置や道路整備等による安全・快適な環境の整備を行い、住みやすいまちづくりを行っている。

交通アクセスの充実を促すための取組

- ① JR(南神宮駅)駅南側や市電乗り場を誘致。住民の利便性が向上し、来街者の増加に繋がっている。
- ② 商店街と鹿児島大学新校舎を結ぶシャトルバスを運営。1日に2往復運行し、高齢者や子育て世代の生活の足として活用されている。
- ③ 商店街地区と市電乗り場を結ぶシャトルバスを運営。シャトルバス停の設置が実現している。

安全・快適な環境を整備するための取組

- 防犯** 商店街各所に防犯カメラを設置。街路等に防犯カメラを付け、地域の安全・安心を繋げている。
- 歩道** コーヤ舗装による交通安全への意識喚起。バリアフリー化を行うなど、歩きやすい歩道を整備し、安全性と利便性を高める(市と連携)。
- 車道** 人通りが多い市電通駅周辺から市電駅までの道路を、通行車速がスピードを出しにくくなる仕掛けを整備し、歩行者の安全性を確保している。

地域の中心に位置する駅前コスモタウンにある屋根付きの広場は、イベント開催にも使用され、自然と人が集まる。地域のコミュニティ形成の場として重要な役割を担っている。

- 商店街として駅やシャトルバスの誘致を行ったが、取組でできた幸運であつたとも思う。シャトルバスの誘致は成功したが、商店街内だけでは、取組やイベントに参画できる可能性が限られる。商店街以外に「商店街」以外に「商店街」という意識をもちたい。
- 駅前コスモタウンは、産官民連携になりつつある。民間企業も商店街が主役になるが、住つて暮らすためのまちづくり。民間企業も商店街の活性化にも重要な役割を果たす。

新設商業系中小企業「地域づくり」(2024年度地域振興策) 宇宿商店街振興組合

住みやすく住民が楽しめるまちづくり

【鹿児島県鹿児島市】宇宿商店街振興組合

ポイント② ビジyon作成・組織運営

駅やバスなどの環境整備が進んだ状況を踏まえ、商店街として「鹿児島で住みたい街No.1」を目指すこととし、ターゲット、KGI(Key Goal Indicator: 重要目標達成指標)とKPI(Key Performance Indicator: KGIを達成するための中間指標)を設定しながら、PDCAサイクルの振り返りと翌年度の取組を決定。報告書を作成して会・賛助会員等に説明することにより、継続した取組に繋がっている。



【図7】振り返りの設計図となるPDCAサイクル表

PDCAサイクルを効果的に実施するポイント

- Plan** 「商店街は、地域の人々が初めて知り立つ」ことを意識し、どのような住民を大事にしていきたいかをテーマとして、5つの目標(※)を設定。5つの目標(※)は変えない。
- Do** 「商店街は、地域の人々が初めて知り立つ」ことを意識し、どのような住民を大事にしていきたいかを考えるが取組を実施。課題があれば、必要に応じて弁護士と専門家に相談する。
- Check** 「組合員・他の関係者」「住民・行政等」「まちの将来像」の3つの観点から評価。住民からの評価は、地域内の小学校・中学校のPTA(注)を依頼。本部への働きかけやシャトルバス待合室へのアンケート設置による調査なども必要に応じて実施。
- Action** 毎月2回(3月)の理事会において、取組の振り返りと翌年度の取組を決定。取組内容を地域に発信するよう取組を実施する。継続して行う事業と重要事業を取組継続して実施している。重要事業の内容や担当者等の変更などを理事会に報告し、必要に応じて報告書を作成し、会員・賛助会員等に説明することにより、関係性の確立や関係者の理解が深まり、継続した取組にもつなげている。

PDCAサイクルを回すと取組が定着する感覚がある。毎年度実施している。PDCAサイクルを回すと取組が定着する感覚がある。毎年度実施している。PDCAサイクルを回すと取組が定着する感覚がある。毎年度実施している。

組合内での合意形成は、なるべく全員で会議を行う。内容に応じて、賛助会員の意見も確認。決して一部の人が決めて進めず、全体の納得を得て事業を行う。また、会議での決定事項を明確に示すために、理事長自ら理事会での議事録を作成。議事録や支出内容を会員・賛助会員に共有することにより、透明性を確保し、組合活動への理解も深める。

商店街の個店がどのように稼いでいくか、組合がどのように資金を得て事業を継続的に実施し、地域の活性化に繋げるかを考えるにあたり、金融機関や講師を招いた勉強会を実施。論理的な議論の方法についての勉強会なども行っている。

青年部は、現在商店街で商店街を知らない者も含め11名所属。朝活や夜更張り等の事業を通じて、商店街の運営を学ぶことで、後継者を育てている。

後継者問題はどこにもあると思うが、カリスマ性のある中心人物がいなくても、2、3人の中心人物が得意分野に応じて分担しつつ議論しながら進めていくのもよいのではないかと。

新設商業系中小企業「地域づくり」(2024年度地域振興策) 宇宿商店街振興組合

住みやすく住民が楽しめるまちづくり

【鹿児島県鹿児島市】宇宿商店街振興組合

ポイント③ 住みやすさと楽しさを提供する

まちづくりを行うにあたっては、インフラを整え住みやすいまちにすることに加え、地域住民が地元や商店街に愛着を持ち、住み続けたいと思うようなまちにすることも必要。

振興組合は、30年以上にわたり年間20以上のソフト事業を実施。楽しさを提供するだけでなく、地域住民が商店街やまちづくりに関与する機会を、商店街や公園などの地域資源を活用して人が交わる場を作り、地域の結びつきを強めている。地域の子供へのふるさと教育も行い、ローカルファーストのアイデンティティを醸成している。

おじやっちゃんせり

ネットワーキングや他地域のお店の出店する市を毎月開催。年金支給日に合わせて開催することにより、年金受給者の楽しみにも繋がっている。

商人選手権

後継者を育てる一環として、商売の楽しさを子供達に知ってもらうために、小学生が店の運営を体験できる。金融機関の協力を得て、店舗や売上のチャックをサポートする。

えびさすサポート

イベントなどの商店街運営をサポートする「えびさすサポート」を募集。80名以上の住民が参加している。毎年1回、商店街の運営委員として店舗訪問することにより、商店街との繋がりがもたらされる。



【図1】おじやっちゃんせり 【図2】ネットワーキング大会開催 【図3】えびさすサポート活動

近頃は参加者が減り、専ら行きずり。しかし、少しの工夫で、地元のお店にも足を運んでほしい。イベントなどの機会を通じて、商店街と地元住民の方との絆を深めようとするための取組を行っている。

イベントの実施の際は、振興組合内にて実行委員会を設置。市、消防、警察、近隣地区の商工会、銀行、町内会、学校、神社など、組合員以外の地域の機関の協力を得て実施。振興組合が事務局となり、実行委員の協力により開催した県内商店街のグルメ大会「Show-1グランプリ」では1万人超を来客。商店街の知名度を高め、地域外からの来街者を促す取組も行っている。

災害時にも安心できる場を提供するため、「ほろよい朝市ネットワーク」に所属。災害時には、加盟する全国の商店街から救援物資がすぐに届くようになっている。東日本大震災では、被災地へも協力も行った。

また、商店街地区周辺の量販店は、対立するのではなく、振興組合の賛助会員として、連携することにより、地域住民の利便性を高めている。

量販店の連携

まちづくりの考えに賛同した半径2km圏内の量販店を、振興組合の賛助会員として振興組合に加入。賛助会員になることで、振興組合の活動に参加し、地域住民の利便性を高めることに成功。賛助会員は、振興組合のお祭りに協賛するなど、対立するのではなく、協力関係を築いている。

量販店との関係は、賛助会員として対立したのではなく、量販店と商店街が連携することによって、住民の利便性になり、住民が増える良いとされた。住む人が増えることにより、商店街に訪れる人が増え、商店街の賑わいや地域の活性化に繋がると考えている。量販店と商店街が共存共栄していくことを目指している。

新設商業系中小企業「地域づくり」(2024年度地域振興策) 宇宿商店街振興組合

住みやすく住民が楽しめるまちづくり

【鹿児島県鹿児島市】宇宿商店街振興組合

取組の成果

長年、住みやすいまちづくりに向けた環境整備を行い、また、「鹿児島で住みたい街No.1になる」との目標を掲げ、PDCAサイクルを効果的に実施しながら様々な取組を行うことで、地域住民・商店街内の事業者と関係する様々な指標で効果が見られている。

周辺人口は、2016年の7,054世帯14,719人から、2024年2月には17,651世帯(1,086戸)15,183人(1,03世帯)と増加。宇宿小学校の児童数は2000年の418名から徐々に増加し、2023年には19年連続573名(1,37世帯)となった。振興組合を中心として地域住民と一緒にまちづくりを行うことで、地域住民から「宇宿は便利で暮らしやすい」「商店街で買い物やサービスを利用するのが楽しい」「宇宿の街に誇りを持っている」といった声も寄せられている。

2024年の商店街内の空き店舗率は4.2%で、鹿児島市の平均10.0%と比較して5.8%低い。若い経営者が運営する店舗も増えており、店舗店主の平均年齢は、60~70代から48.9歳に大幅に下がっている。

取組事例のポイント

宇宿商店街の取組は、長期的な視点に立ち、住みやすいまちを作るための基礎整備を行うとともに、まちへの愛着を育てる点に特徴がある。

基礎整備については、商店街が駅・シャトルバスを誘致し、住民から求められている交通を整備するなど、利便性を高めている。交通と人口は相関しており「便利な街」というイメージを高めた。また、歩道は、途中で切れたりせず、歩きやすく整備されており、安心して歩くことができるウォークアブルなまちづくりが行われている。

近年の商店街は、物販・サービスだけでなく、むしろコミュニティとしての機能も求められており、安全に歩けることに加え、休むことができるコミュニティ施設が整備されていることは重要である。商店街はコミュニティの中心であり、コミュニティの核としての存在が重要となる。

一般的に20代から50代は、ショッピングセンターや大きな店舗に行く傾向があり、商店街のマーケティングが重要とされるのは高齢者と若者である。宇宿商店街振興組合では、商店街のターゲット層を大切にしたいという考えを踏まえ、多様な年齢層に合わせた事業を実施し、PDCAサイクルをしっかりと回していることも注目される。「Plan」「Do」に取り組み商店街が多いが、「Check」まで行っている商店街はあまりない。KPIを設定し、取り組みを振り返ることにより、有用な施策に絞って取り組むことができる。また、賛助会員という制度を作ることにより、組合員以外の量販店等も含めた多様な主体の意見を反映することが可能となっている。


他商店街で参考とするポイント

まちの未来を見据えて、20年~30年の長期的視点でまちづくりを進める視点を共有すべきである。おじやっちゃんせりや商人選手権などは、コミュニティ形成や世代間の関係を目指した活動であり、未来を担う若者を育てることも重要な視点であり、今後の商店街は未来を見据えてPDCAサイクルを回し、戦略的に意思決定を行っていくことが求められる。

1- 商店街概要

名称: 宇宿商店街振興組合 会員数: 27名
所在地: 鹿児島県鹿児島市宇宿3丁目1番1号 店舗数: 90店舗(小売業15店、飲食業27店、サービス業31店、金融業3店、不動産業41店、医療サービス業5店、その他5店)

電話: 099-257-9690
URL: <http://www.usukori.jp/>



ポイント3 ビジョン作成・組織運営

新卒採用の人数増強を促す「実習生制度」の導入から、働き方改革の推進まで幅広い取り組みを実施。また、POCAの導入も、働き方改革の推進に大きく貢献している。



2024年2月現在の組織図とPOCAの導入状況

POCAサイクル多面的に実施するポイント

- Plan** 目標を設定し、達成するための計画を立てる。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。
- Do** 計画に基づき業務を実行する。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。
- Check** 業務の進捗を確認し、必要に応じて計画を修正する。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。
- Act** 業務の進捗を確認し、必要に応じて計画を修正する。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。

POCAを導入することで、業務の見える化が進み、業務の効率化が図られる。また、業務の見える化により、業務の進捗を確認し、必要に応じて計画を修正することができる。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。

業務の見える化を進め、業務の効率化を図る。また、業務の見える化により、業務の進捗を確認し、必要に応じて計画を修正することができる。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。

業務の見える化を進め、業務の効率化を図る。また、業務の見える化により、業務の進捗を確認し、必要に応じて計画を修正することができる。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。

取組の成果

まず、POCAを導入し、業務の見える化を進め、業務の効率化を図る。また、業務の見える化により、業務の進捗を確認し、必要に応じて計画を修正することができる。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。

有識者の視点



筑波大学大学院
マーケティング学専攻
教授 藤田 浩典

取組事例のポイント...

半導体業界の競争激化の中で、POCAを導入し、業務の見える化を進め、業務の効率化を図る。また、業務の見える化により、業務の進捗を確認し、必要に応じて計画を修正することができる。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。

POCAを導入することで、業務の見える化が進み、業務の効率化が図られる。また、業務の見える化により、業務の進捗を確認し、必要に応じて計画を修正することができる。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。

業務の見える化を進め、業務の効率化を図る。また、業務の見える化により、業務の進捗を確認し、必要に応じて計画を修正することができる。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。

他業種で参考とするポイント...

POCAを導入することで、業務の見える化が進み、業務の効率化が図られる。また、業務の見える化により、業務の進捗を確認し、必要に応じて計画を修正することができる。POCAの導入による業務効率化を推進し、業務の見える化を図る。

商店街概要

名称: 半導体流通株式会社
 所在地: 茨城県つくば市南大谷3丁目1番1号
 電話: 049-257-9690
 代表者: 藤田 浩典
 従業員: 約100名
 URL: <http://www.unilab.jp/>



資料はこちら(PDF 2.28MB)

[5] 株式会社ベース、諫早市中心市街地商店街協同組合連合会 ※PDF版・HTML版

経度産業中小企業庁「地域づくり」が推進する地域活性化2024「消費者協同連携」
株式会社ベース 諫早市中心市街地商店街協同組合連合会

商店街を「場」として活用して地域のぎわいを創出

【長崎県諫早市】株式会社ベース・諫早市中心市街地商店街協同組合連合会

- 商店街を賑わい創出の「場」として捉え、アーケード下の通りをイベント実施が活用できる環境を整備。イベント開催数や来街者数が増加し、地域の賑わいを創出している。
- 株式会社ベースは、商店街が単なる買物場を超え、住民の夢や希望を後押しする場とすることを目指して「Goo Goo Marche」などのイベントを商店街において継続的に実施。
- 多数のイベント実施によるぎわいの創出で、連合会が取り組む空き店舗対策等により、連合会地区の空き店舗数は大幅に減少している。

1-取組の背景

諫早市中心市街地は、かつては遠方からの来街者が多く商業地として賑わいを見せていたが、大型店の出店店の影響などにより来街者が減少した。

諫早市中心市街地活性化基本計画（平成10年度）も踏まえ、まちづくりを推進する組織として、隣接する「栄町通り」「はなま通り」「首の下通り」の3つの商店街が諫早市中心市街地商店街協同組合連合会（通称「いさ」）やアール中央商店街）を設立。アーケードや歩道などの整備や空き店舗対策など様々な事業を実施している。連合会の中央商店街活性化委員会委員長も務めた株式会社ベースは、商店街のアーケードを活用した地域活性化のイベント等を企画・運営している。



【図1】いさのエリア（中央商店街）と周辺の商店街の位置

1-取組のポイント

ポイント1 商店街を賑わい創出の「場」として使う

連合会は、商店街を「場」として活用してもらうことにより、まちの賑わいを創出しようと考え、アーケード下の通りをイベント実施の場として提供している。連合会が大型店舗地を運営する「アールいさはや」に設置した太陽光発電設備で発電した電気を無償提供するなど、イベントを実施しやすい環境を整備した結果、大規模イベントの影響もあり、「商店街でイベントを開催できる」という認知が広がり、イベント開催の回数や来街者数が増加。週末を中心に月1回以上、特に10月から12月までは毎週イベントが開催されている。

イベント開催が、必ずしも商店街各店舗への直接的な収益や空き店舗への出店につながるものではないが、多数のイベント実施による賑わいの創出で連合会が取り組む空き店舗の引き下げ等により、連合会地区の空き店舗率は、15%（2012年）から5.9%と（2025年3月）に大きく下がっている。

商店街活性化に向けた取組の推進にあたっては、連合会・市役所・商工会議所が緊密に連携。大型店舗地の購入、アーケードや歩道の整備、太陽光パネル設置といった環境整備では、連合会がビジョンを策定し、市役所が予算的支援や資金調達支援を行い、商工会議所が関係団体等の調整を担うなど、それぞれが得意分野を活かして役割を分担し、迅速に事業を進めている。

商店街の賑わいは「商売の場」だけではなく、「イベントの場」でもあり、自らイベントの企画運営を行うのではなく、各部署の得意分野に合わせた企画の力で効果が大きい。アーケードは、まちにとって必要。今後も連合会・関係の団体としてアーケードをしっかりと維持し、地域にぎわいの創出のための「場」として活用していく。



【図2】アーケード



【図3】アールいさはや

経度産業中小企業庁「地域づくり」が推進する地域活性化2024「消費者協同連携」
株式会社ベース 諫早市中心市街地商店街協同組合連合会

ポイント2 イベント実施による地域の活性化

株式会社ベースの企画・運営のもと連合会が主催となり、地元産品や雑貨の販売、キックンカーが出店するイベント「Goo Goo Marche」を開催し、地域活性化につなげている。年3回実施しており、開催時には約10,000人の来街者を集め、地域の賑わいを創出している。

「Goo Goo Marche」の出店者は、約600以上の出店登録者のうち出店希望者から各回設定されるテーマに基づき約100者を選定して決定。また、同日に連合会店舗で行う100円商店街形式のイベント「Aer MARCHÉ」を同時開催し、両イベントの相乗効果による来街者の増加を目指している。

連合会として、両年の取組は企画の協力・支援が不可欠であり、新しい取組も目指したいと考えている。イベント出店者と商店街関係者の連携も重要であり、商店街の賑わいを創出することを目指す。

商店街が単なる「商売の場」ではなく、地域活性化の場として活用できる「場」であることが求められている。イベント出店者と商店街関係者の連携も重要であり、商店街が単なる「商売の場」ではなく、地域活性化の場として活用できる「場」であることが求められている。イベント出店者と商店街関係者の連携も重要であり、商店街が単なる「商売の場」ではなく、地域活性化の場として活用できる「場」であることが求められている。



【図4】Goo Goo Marcheの様子



【図5】Aer MARCHÉの様子



【図6】Goo Goo Marcheの様子

株式会社ベースは、イベントを継続的に行うために、4つのポイントを重視している。

イベントを継続的に行うためのポイント

- ① イベントと本業に補助性がある業種を企画・運営の主要メンバーに選定
イベントと本業の両方を営んでいるメンバーが企画・運営を行う。企画にも身が入り、かつ自身の事業の成長につながるから、継続的に参加を促すことができる。
- ② 目的の明確化
イベントを「なぜやるか」を明確にしたうえで実施する。目的を明確にしないと、無秩序な運営が行われ成功しにくい可能性がある。
- ③ スモースター
イベントは、小さく始めて徐々にメンバーを増やし、人数が広がることで活性化を図る。一歩目を小さくするが長期的な成長につながる。
- ④ 責任者
イベント責任者として名前を出し、時間をかけてリソースをとる。リーダーは、イベント計画段階でやるべきことについて役割を分ける。

イベントのターゲット層は、特定の属性に絞らず幅広い配慮。年齢や性別ではなく、趣味や嗜好に基づいて設定する。「Goo Goo Marche」では、地元で新しい体験を楽しみたい人や地元作家とのつながりがある人などターゲットとして広く設定している。

情報発信は、イベントの内容やターゲット層に応じた工夫を取り入れている。子ども向けイベントでは、まずは両親や祖父母世代に情報発信し、その後子どもも来場へ促すように工夫。イベント内容は「嬉しい」だけでなく、イベントの具体的な魅力を訴求することで、イベントへの興味を高める。

連合会では、アーケード内で開催されるイベント情報を公式HPに掲載し、情報をまとめたチラシを各店舗で配布することで、来街者への情報提供を強化している。

地方では、特定の属性をターゲットに限定すると十分な集客が難しくなる。まずはコア層に受け入れられるイベントの魅力を発信し、イベントに込めた「嬉しい」については、先に伝えることが重要。若い世代を対象とするイベントではSNSの活用が効果的だが、特に単発のイベントでSNSを「バズらせる」とは難しく、チラシ配布の方が効果的な場合が多い。

経度産業中小企業庁「地域づくり」が推進する地域活性化2024「消費者協同連携」
株式会社ベース 諫早市中心市街地商店街協同組合連合会

ポイント3 商店街を地域の多様な人々が活躍できる場として再構築

株式会社ベースは、高度経済成長後、商店街は商品を並べるだけで客の「ワクワクしたい」というニーズを満たすことができなかったが、現在は「買物×ワクワク」という時代でなくなったと捉え「ワクワク」を作り出す「4th place」を商店街に作ることを目指している。

「3rd place」が自宅や学校・職場に続く「居心地の良い場所」を意味するのに対し、「4th place」は「やりたいことや叶えたいことを実現できる場所」と定義。商店街を売場だけでなく地域の多様な人々が活躍できる場として再構築することにより、商店街は単なる買物場を超え、地域コミュニティとの結びつきを強化し、住民の夢や希望を後押しする場として機能している。

百貨店や大規模店舗が中心だったアーケード下を再構築すると、大型店舗が高密度で集まることで「気配」が生まれ、大規模店舗がなくても多様な店舗が並び、買物客が自然と立ち寄りやすくなる。また、大規模店舗がなくても多様な店舗が並び、買物客が自然と立ち寄りやすくなる。また、大規模店舗がなくても多様な店舗が並び、買物客が自然と立ち寄りやすくなる。

株式会社ベースの企業理念である「心動くワクワク」を「Goo Goo Marche」においても大事にし、単なる販促目的のイベントではなく、来街者のワクワクする心を動かし、商店街の賑わいを創出しようとしている。関係者全員が喜びを感じられるイベントの持続は難しいと認識し、来場者だけでなく、ボランティア、出店者、市職員などイベントに関わるすべての参加者を「お客様」として、「お客様」に喜びを提供している。関係者が参加するモチベーションを「丁寧に育て、個々の希望に沿った役割分担を行うこと」で、無理なくイベントに参加できる体制を整えている。この取組により、参加者には「自分たちが街を動かしている」という実感と責任感が生まれ、地域への誇り（シビックプライド）の醸成にも繋がっている。

Goo Goo Marcheは、高坪の約600名以上の出店者で賑わっており、週末や学校帰りを兼ねて来店する方もいる。ボランティアや市職員も参加し、地域活性化の場として活用されている。また、大規模店舗がなくても多様な店舗が並び、買物客が自然と立ち寄りやすくなる。また、大規模店舗がなくても多様な店舗が並び、買物客が自然と立ち寄りやすくなる。

高校生は学業と両立が難しく、それ以外に目標に向ける機会はなく、「自分たちが街のためにできることはない」という先入観があった。しかし、自分が関わったイベントで商店街が盛り上がり、地域活性化の場として活用されている。自分たちが街を動かしているという実感と責任感が生まれ、地域への誇り（シビックプライド）の醸成にも繋がっている。



【図7】高校生ボランティアの活動の様子



【図8】カフェ



【図9】いさはや市場TETOTE



【図10】ARCH

連合会は空き店舗対策も進めている。商店街を維持していく観点から多様な業態を作らず、福祉施設や製造業のオフィス等も商店街に受け入れている。

株式会社ベースは地域に不足している要素を見極め、それを補う複数の事業を商店街内で実施。これらの店舗を目的として商店街を訪れる人も増加しており、地域活性化に大きく寄与している。

BASE cafe
地域に不足していたカフェとカレー店を揃え、人が集まる地域コミュニティの場にもなっている。

いさはや市場TETOTE
総務課に企画運営を担うニューオープン。豊富な品揃えと、新鮮な野菜を使ったメニューが人気。商店街の賑わいを創出する場として活用されている。

ARCH
約18年続いた第100周年のイベントをノベルティショップやイベントスペース、交流の場として、総務課、コンパートメント、会議場などさまざまな用途で使用できる。

ファストフード
TOMMY'S BURGER
創業1991年、諫早のファストフードとして幅広い世代に親しまれている。

生鮮野菜は季節変動が大きく、特に夏には商品が不足するなど生鮮野菜の運賃は非常に高い。しかし、地元産品が豊富にある。この機会に地元産品を積極的に取り入れ、地元産品の魅力をアピールしている。

経度産業中小企業庁「地域づくり」が推進する地域活性化2024「消費者協同連携」
株式会社ベース 諫早市中心市街地商店街協同組合連合会

1-取組の成果

商店街のアーケード下をイベントを実施する「場」として活用してもらう取組を連合会として推進。イベントを実施しやすい環境や、株式会社ベースが継続的に実施する「Goo Goo Marche」などの大規模イベント開催の効果が、「商店街でイベントを開催できる」という認知が広がり、イベント開催回数や来街者数が増加した。

Goo Goo Marcheでは地域の人の巻き込みなど、商店街が単なる買物場を超え、住民の夢や希望を後押しする場として機能し、シビックプライドの醸成にも寄与している。

多数のイベント実施による賑わいの創出で連合会が取り組む空き店舗の引き下げ、空き店舗対策等により、連合会地区の空き店舗率は、15%（2012年）から5.9%と（2025年3月）に大きく下がっている。

有識者の視点

取組事例のポイント・・・

株式会社ベースの取組の特徴は、地域活性化における二つの基本的アプローチを効果的に組み合わせている点にある。一つは「不足するものを補う」点で重点型アプローチであり、もう一つは「既存の強みを伸ばす」価値向上型アプローチである。

同社は地域に足りない要素・業態を分析し、必要なお店を戦略的に導入する一方で、「Goo Goo Marche」を通じて地域固有の資源を掘り起こし、それらの魅力を発信する場も創出している。多くの地域活性化事例ではどちらか一方に偏りがちであるが、両方のアプローチをバランスよく展開することで、短期的な集客増加と長期的な地域価値向上を同時に実現している。

特筆すべきは、「Goo Goo Marche」における参加者との関係性構築である。高校生ボランティアや出店者を「お客様」として位置づけ、彼らの活躍の「場」を提供している。この関係性の再定義により、商店街は商業空間から地域活動のプラットフォームへと進化している。

株式会社ベースの活動からは、商店街に新たな機能を付加することで諫早の活性化に繋げていくという明確なビジョンが感じられ、若い世代が地元で活躍できる機会を示す役割も果たしている。

他商店街で参考とするポイント・・・

他の商店街が「あふれる」集客の取組は、「不足を補う」アプローチと「強みを伸ばす」アプローチの効果的な組み合わせである。多くの商店街再生策は前者に重点を置いているが、地域固有の資源を活用する後者のアプローチも同等に重要である。

また、イベント運営において商店街関係者に閉じない幅広い参加者を受け、地域の多様な関係者が主体的に参加できる「場」を創出している点も参考になる。一つのアプローチを脱した多目的な地域活性化戦略は、どの商店街でも応用可能な有効なモデルといえるであろう。

1-商店街概要

名 称：諫早市中心市街地商店街協同組合連合会
会員数：91名
所在地：長崎県諫早市本町3-11
店舗数：96店舗（小売業55店、飲食業30店、サービス業21店、その他13店）
アールいさはや2F
電話：097-35-5757
URL：https://aei-shoudengai.com/federation/

【7】吹田市旭通商店街協同組合 ※PDF版・HTML版

経済産業省中小企業庁「地域づくり」 2024年度補助金申請要綱
吹田市旭通商店街協同組合

地域と協力して子育て世代や若者を呼び込む

【大阪府吹田市】吹田市旭通商店街協同組合

- 商店街の体制や風土を刷新し、現業専業主婦を中心として地域の人や専門家等がチームとなって、子育て世代や若者の来街者増加に向けた取組を実施。
- 商店街が販店を改装し、カフェやレンタルスペース「tocooco...」を設営。授乳室、キッズスペース等を備えたレンタルスペースには、簡易店舗が併設。スタッフキッズなどとしてカフェスペースの貸出し、近隣作家の作品展、近隣人気店の協賛販売を行うイベント等を開催するなど、商店街に人が集う拠点となっており、特に子育て世代の来街者が増加した。

1- 取組の背景

吹田市旭通商店街は、大阪の中心部から南東へ約10分の場所にあり、かつては多くが賑わっていたが、近年は来街者が減少してきている。しかし近年では観光大規模商業施設の設置、ロードサイド店舗の出店などにより商店街の利用者が大きく減少。利用者の高齢化も進み、子育て世代や若者の来街者数は減少しているが、新規来街者獲得のための取組は行っており、現状の体制や風土を刷新して活性化したいという思いを持つ者もいる。

1- 取組のポイント

ポイント1 地域の特徴を取組に活かす

既存の体制や風土を刷新したいという思いのある理事や現業専業主婦を中心として商店街改革を託した。現理事長は、商店街改革に向けたビジョン作成にあたり、中小企業診断士の協力を得て、商店街の強みや弱みや既存事業の採算などの分析を実施。地域の特徴として、人口増加に伴って若者が多く、大学が多いことも関係なく、子育て世代や若者が集うことが期待された。

子育て世代や若者をターゲットとして定め、高齢者だけでなく、子育て世代や若者も集う「場所」を作ることで来街者を増やすことを目指し、tocooco...の取組を決定した。また、不採算事業であったスタンプ事業と新聞折り込み広告の見直しも行い、商店街の事業の集中化を図った。

tocooco...概要

- **3階** レンタルスペース
小売、マッチング、集客や時勢変動の店舗が活用。親子向けのワークショップなども開催されている。
- **2階** キッズスペース
子供が遊ぶことができるスペース。授乳やおむつ替えなどにも活用されている。
- **1階** カフェ（シェアキッチン）
キッズメニューやメニューの作り置きなどがあり、親子で利用しやすい。シェアキッチンとしても活用されている。

● **補償販売・イベント等**
定期的に1階はハンドメイド作家の作品展を開催している。店舗では、ワークショップ（月1回開催）などのイベントを開催している。

● **商店街での取組を日や夜間に実施した**。よきなかで、昼間はと見えないが夜は活気のある場所になっている。tocooco...の取組を決定した際に、商店街が閉鎖することに対する反対はあった。tocooco...の運営が収益を出していることが、特に子育て世代の来街者増加につながる。また、不採算事業であったスタンプ事業と新聞折り込み広告の見直しも行い、商店街の事業の集中化を図った。

経済産業省中小企業庁「地域づくり」 2024年度補助金申請要綱
吹田市旭通商店街協同組合

地域と協力して子育て世代や若者を呼び込む

【大阪府吹田市】吹田市旭通商店街協同組合

ポイント2 運営側として商店街に関わる人を増やし体制を整える

商店街の側面は1人店主も多く、日中組合活動に従事することが難しい場合が多い。そのためビジョンを持って運用できない商店街もあるが、吹田市旭通商店街協同組合では、商店街以外に協力を求め実行体制を整えた。商店街が主体的に考え決定し、活動に関わる人達に商店街の協力者・サポーターとして参画している。

一人だけが頑張るのではなく、商店街の動く人・考える人と、知恵を活かしてサポートする人がチームとなり、足りないところを補いながらチームで取組を進めることが成功に繋がっている。

中小企業診断士	まちプランナー	tocooco...運営者	その他
● 商店街の現状の課題を把握し、事業計画や補助金申請書を作成	● 商店街に子育て世代の集客や来街者を呼び込むための取組を提案	● tocooco...運営者自らも同じく事業を推進	● 大学など、イベントなどを通じて商店街の活性化に協力

中小企業診断士の知見

アイデアを実行に移すには、公共的の説明や事務的な作業が必要となる。拠点整備やイベント開催のための自治体からの補助金の取得にあたり、申請書の作成にコストがかかることも多いが、多くの商店街支援実績のある中小企業診断士が申請書作成を担った。知恵を生かし、事業計画やビジョンづくりをサポート。近隣大学との協力要請の準備など事務的なフォローや施設実現のためのアドバイスを行っている。

まちプランナーの活躍

子育て世代の集客を取り入れることを目的として「まちプランナー」を募集。勉強会等を通じ、女性や若者が入りやすい場所にするために、おむつ替えスペースや授乳室等の整備を推進するなど、子育て世代や若者にとって子育てしやすい環境づくりを推進している。また、まちプランナーは、商店街の活性化に貢献している。また、まちプランナーの募集や情報発信については、地域の子育て情報誌「ママズレポート」と相互協力を行っている。

tocooco...運営者

tocooco...取組は商店街が運営していたが、現在は、吹田市旭通商店街をまとめるマルシェを開催していた商店街に事業を譲渡。ビジネス性を高めることで継続性を確保している。設置目的にも賛同しており、商店街の理事長も兼任。商店街への子育て世代や若者が集う「場所」をつくるためのイベントなどを行うほか、来街者が商店街の他の店舗を訪問する流れを作るための取組も実施している。商店街としても継続性を支えるため、運営費用の一部負担するなどの協力を行っている。

現理事長	まちプランナー	中小企業診断士	その他
● 自分一人でできないので、人に任せることが大切である。かといって、安全に任せることができない。自分一人ではできないので、人に任せることが大切である。かといって、安全に任せることができない。自分一人ではできないので、人に任せることが大切である。かといって、安全に任せることができない。	● tocooco...運営者自らも同じく事業を推進	● 現理事長のようによく人と考える人はなかなかいない。商店街の活性化に貢献している。また、まちプランナーの募集や情報発信については、地域の子育て情報誌「ママズレポート」と相互協力を行っている。	● 大学など、イベントなどを通じて商店街の活性化に協力

経済産業省中小企業庁「地域づくり」 2024年度補助金申請要綱
吹田市旭通商店街協同組合

地域と協力して子育て世代や若者を呼び込む

【大阪府吹田市】吹田市旭通商店街協同組合

ポイント3 来街者を増やし商店街の収益に繋げる

商店街が子育て世代や若者が集う「場所」にするために来街者を増やすために様々な工夫を行っている。子連れで来街する際の困りごとをなくし、また、商店街にこれまでになかった「子育て世代同士が子育てにおける悩みや情報交換の場」を築くことができるコミュニティ機能も付加することによって、子連れの来街者が増えている。

また、tocooco...に様々な機能を持たせることにより、子育て世代や若者だけでなく、より幅広い層の来街に繋がっている。tocooco...を目的として来街した者が、商店街の他の店舗の店員を利用する機会が増えている。tocooco...が収益を出していることが、特に子育て世代の来街者増加につながる。また、不採算事業であったスタンプ事業と新聞折り込み広告の見直しも行い、商店街の事業の集中化を図った。

カフェ

- 親子をメインターゲットとしており、キッズメニューやベビーチェアを備え、おむつ替えスペースや授乳室も備わっている。授乳やおむつ替えができるよう配慮されている。
- シェアキッチンとして貸し出しもしており、大学生によるワークショップなどの活用や、展示会、誕生日会など多目的な利用が可能となっている。

キッズスペース

- 授乳やおむつ替えができるスペースを設けることにより、子育て世代が安心して来店しやすくなる。また、子供が遊ぶことができるスペースも設けている。
- 雨の日はキッズスペースを利用してやすくして外出をサポート。吹田市の子育て団体「ほっぺっこ」に月2回定期的に集まる機会を設け、商店街に訪れやすくなる取組を行っている。

レンタルスペース

- ネイルサロン、フォトブース撮影、パン教室、占いなど常時複数の出店者が利用。出店だけでなく、打ち合わせやミーティングの場としても活用可能。
- 親子向けのワークショップを開催するワークショップなども開催されており、毎月約50名の子育て世代の来街者を生み出すことにも繋がっている。

補償販売

- 建物1-2階は全国のハンドメイド作家の作品展を開催している。tocooco...がSNSで商品紹介を行うため、作家さんにも利用しやすく、常時70作業量が出展している。開催しているため、新しい商品を求める層の来街に繋がっている。

イベント

- 近隣人気店が、店頭・店内で商品を販売する「ミラクルショップ」を月1回開催。出店者が商店街の店舗の整理と連携し、イベントを開催することで、来街者が増える。また、子供や若者が集う「場所」をつくる。また、子供や若者が集う「場所」をつくる。
- フォーマーケット、季節のイベントなど様々なイベントを実施することで、幅広い層の来街に繋がっている。

大学との連携

- 商店街を大学のフィールドワークの場として活用する取組も行っている。大阪大学の学生が、食品ロスの削減を目的とした規格外品を活用したワークショップを開催。大阪経済大学の学生は、公共政策の授業の一環として商店街における課題をテーマとしてフィールドワークを行った。商店街の活性化に向けたビジョンコンテストなども開催し、若者が来街するきっかけづくりを行っている。

商店街への貢献

- tocooco...利用者に組合会費を配布して来店の利用をサポートし、tocooco...自身が収益を上げることで、商店街の活性化に貢献している。また、tocooco...が収益を出していることが、特に子育て世代の来街者増加につながる。また、不採算事業であったスタンプ事業と新聞折り込み広告の見直しも行い、商店街の事業の集中化を図った。

おもちゃも用意されているおむつ替えスペースも設置しています。利用しているママとパパの協力もあって、授乳やおむつ替えもスムーズです。利用しているママとパパの協力もあって、授乳やおむつ替えもスムーズです。利用しているママとパパの協力もあって、授乳やおむつ替えもスムーズです。

経済産業省中小企業庁「地域づくり」 2024年度補助金申請要綱
吹田市旭通商店街協同組合

地域と協力して子育て世代や若者を呼び込む

【大阪府吹田市】吹田市旭通商店街協同組合

1- 取組の成果

現理事長を中心として地域の人や専門家等がチームとなって、子育て世代や若者の来街者増加に向けた取組を実施。子育て世代や若者が集う「場所」を整えることにより、これまで商店街の利用者が少なかった時間帯に利用される機会が増えるようになった。また、アイデアを生かした様々な取組を行うことで、結果として子育て世代や若者だけでなく幅広い層の人が集う拠点として、これまでなかった人々の流れや活気を生み出すことに成功した。子育て世代のコミュニティの場としての役割も果たしており、地域における商店街の機能も強化された。

来街者が増えるだけでなく、商店街が子育て世代を積極的に呼び込むための取組を実施していることに加え、別の商店街から移転してくるなど、新規出店も増えている。

今後は、tocooco...を中心に、商店街とサポートする人達がチームとなって、取組を進めていくことが期待される。

有識者の視点

取組事例のポイント...

吹田市旭通商店街協同組合の取組の魅力は、一人の強いリーダーではなく、多様な人材力を合わせ「チーム」での運営方法にある。以前の商店街の活性化では、おむつ替えスペースの設置や授乳室の設置など、アイデアを生かした様々な取組を行うことで、結果として子育て世代や若者だけでなく幅広い層の人が集う拠点として、これまでなかった人々の流れや活気を生み出すことに成功した。子育て世代のコミュニティの場としての役割も果たしており、地域における商店街の機能も強化された。

来街者が増えるだけでなく、商店街が子育て世代を積極的に呼び込むための取組を実施していることに加え、別の商店街から移転してくるなど、新規出店も増えている。

今後は、tocooco...を中心に、商店街とサポートする人達がチームとなって、取組を進めていくことが期待される。

他商店街で参考とするポイント...

このケースから学べるのは、外部の力を借りる際の上手な関わり方だ。一人で店を切り盛りする店主が多い商店街では、外部協力者との連携が、取組の質を高める基盤となる。さらに特定の顧客層（子育て世代や若者）を「お客様」としてだけでなく「参加者」として見なす方法は、持続可能な商店街づくりの鍵となるだろう。

1- 商店街概要

名称：吹田市旭通商店街協同組合 会員数：91名
所在地：大阪府吹田市朝日町15番12号 店舗数：59店舗（小売業38店、飲食業17店、サービス業11店、不動産業5店、医療サービス業10店、その他8店）
電話：06-6381-0601
URL: <http://suito-asahidori.com/>
<https://tocooco-suita.com/> (tocooco...)

ポイント3 来街者を増やして個店の収益に繋げる

商店街を子育て世代や若者が集う場所とする事で来街者を増やすための様々な工夫を行っている。子育てで来店する際の時間をなくし、来店前にこれまでになかった「子育て世代同士が子育てにおける悩み等の情報交換を行うことができるコミュニティ機能」を付加することで、子育ての利便性が増えている。

また、tocooco...に様々な機能を付加することによって、子育て世代や若者だけでなく、幅広い層の来店に繋げている。tocooco...を目的として来店した者が、商店街の他の店舗の店舗を利用する期間が行けるよう、商店街とtocooco...が協力して取組を進めている。

子育て世代の利便性向上

- 親子キッズスペースとして、キッズメニューやベビーチェアを用意、ベビーカーで入店しテーブルに座りやすいよう配慮されている。
- カフェキッチンとして設置し、大学生によるチャレンジショップでの提供も、無料、無手数料など多目的な利用を可能としている。

子育て世代の交流促進

- 授乳やおむつ替えができるスペースを設けることにより、子育て世代が気軽に交流を促し、悩みを共有しやすくなり、子供が安全に遊ぶスペースとなっている。
- 毎日はキッズスペースを利用してやすくして来店をサポート。
- 来店時の子育て世代「なっぴこ」に月2回開催している「一時保育を行うなど、商店街に行きたくなる施設作りもしている。

子育て世代の交流促進

- キッズメニュー、フォトブース、お菓子教室、おむつ教室等の施設が利用、店舗だけでなく、打ち合わせママ友のスペースとしても利用可能。
- 親子向けワークショップや親子制作ワークショップなども開催されており、毎月約50名の子育て世代の来街者を生み出すことに繋がっている。

子育て世代の交流促進

- 毎月1～2回は店舗のハンドメイド作品の展示販売を行っている。tocooco...が中心で商品企画を行うが、商家ごとでも利用しやすく、期間中の来店客が商品している。積極的に販売を入れるため、新しい商品を求める層の来店に繋がっている。

子育て世代の交流促進

- 近隣入店者が、店舗一帯内で商品を販売する「ツアーマンション」を月4回開催。近隣者が商店街の店舗の集客と競合しないよう配慮。店舗で販売することで、来街者が立ち寄りやすく、商店街アーケード内の店舗にも貢献している。
- ツアーマンション、季節毎のイベントなど様々なイベントを実施することで、幅広い層の来店に繋げている。

子育て世代の交流促進

- 商店街を大学生のフィールドワーク等の場として活用する取組も行われている。大和大学の学生が、食品ロスの削減を目的とした店舗廃棄品を活用したワークショップを開催。商店街の場としてワークショップを実施。大和大学の学生は、食品ロスの削減の一環として商店街における課題をみつめ解決策を提案するようフィールドワークを行った。商店街活性化に向けたビジネスコンテストなども開催し、若者が参画するきっかけづくりを行っている。

子育て世代の交流促進

- tocooco...利用者に現金を配布して来店の利用を促すなど、tocooco...自身が収益を上げることで、継続的な事業運営を担保しつつ、商店街の他の店舗の来店にも貢献するよう取組を行っている。



図1 tocooco...を利用する様子



図2 キッズスペースを設ける様子



図3 ツアーマンションで販売される商品



図4 ツアーマンションで販売される商品

【コメント】
おむつも用意されていておむつ替えもできるので過ごしやすく、利用しているママという感じがするのも楽しく、育児の負担が軽くなるので、よく利用している。
tocooco...がなければ、子供を連れて商店街に来る場合はなかったと思う。利用前は、毎回商店街内で買物をしていました。

取組の成果

理事長を中心として若者の人や専門家等がチームとなり、子育て世代や若者の来店者の増加に向けた取組を実施。子育て世代や若者の来店「tocooco...」を支援したことにより、これまで商店街の利用率が少なかったベビーカー利用者や商店街を訪れる頻度が減るようになった。更に、アイデアを出し合い様々な取組を行うことで、結果として子育て世代や若者だけでなく幅広い層の人が集う拠点として、以前ではなかった人の流れや訪れを促進することに成功した。子育て世代のコミュニティの場としての役割も果たしており、商店街における商店街の機能も強化された。

来街者が増えるだけでなく、商店街が子育て世代を積極的に呼び込むための取組を実施していると感じた入居のメンバーが、別の商店街から経験者として参入してくるなど、取組が広がりつつある。

今後も、tocooco...を中心に、商店街をサポートする人達がチームとなり、取組を進めていくことが期待される。

有識者の視点



流通科学大学学部
マーケティング学科
新 豊実 准教授

取組事例のポイント...

他店や他街の店舗間の取組の場は、一人の強いリーダーではなく、多様な人たちが力を合わせる「チーム型」の運営方法がある。以前の商店街活性化では、カシマのスーパーのリーダーが周りをつなげるチームが多かったが、この商店街では理事長を中心に、中企業経営者、まちプランナー、tocooco...経営者、他店等と、様々な専門家がともに取り組んでいる。

特に目立っているのは、子育て世代を中心に「みんなで参加する」形で運営している点。tocooco...では、実際に子育て中のママさんたちが主体となり、そのうえで中企業経営者の知識を借りている。この「皆が自分自身の手になる」取り組みが、良いやり方と長続きする仕組みを生み出し、成功につながっている。

この商店街の取り組みは、「子育て世代」と「若者」という従来の顧客を大切にしている点も、子育て世代だけでなく、子どもが主だった後も変化がなければ通じ続ける顧客になりうる。大学生の層の呼び込みも重要な要素である。こうした先を見据えた考えが本事業の基幹的要素である。

tocooco...のようにならざるにスペースや販賣施設は、単なる「売り手と買い手」という従来の関係を超え新しい中核を生み出している。この新しい層の人は、時には売り手となり、時には買い手となるという流動的な役割を持つ。商店街の活性化を支える新たな顧客となる可能性がある。

他商店街で参考とするポイント...

このケースから学べるのは、外部の力を借りる際の上手なやり方だ。一人でやり切れない課題が多い商店街では、外部の力との連携が、取組の質を高める基盤となる。さらに特定の顧客層（子育て世代や若者）を「お客さん」としてだけでなく「参加者」として集める方法も、持続可能な商店街づくりのヒントとなるだろう。

商店街概要

名称: 市内流通科学大学駅前商店街
所在地: 大和府田中町1-18番12号
電話: 06-4381-0601
営業日: 9時～18時
店舗数: 87店舗(小売業36店、飲食業17店、サービス業11店、不動産業5店、診療サービス業10店、その他8店)
URL: <http://www.asahidori.com/>
<https://tocooco.asaha.com/>(Tocooco...)

印刷はこちらから(PDF 720KB)

経済産業省中小企業庁(地域)から、わがまち活性化事業2024(事業者協働型)の採択
七日町商店街振興組合・山形まちづくり株式会社

商店街と地域が一体となって取り組むまちづくり 【山形県山形市】七日町商店街振興組合・山形まちづくり株式会社

- 商店街青年会・商店街振興組合とまちづくり会社(以下「商店街組織」という。)による商店街の事業推進体制が確立。青年会において若い頃から中心となって積極的な活動を行った者が、その後、振興組合の理事や役員となり、青年会活動で培った経験と人脈を活かして活動を発展させている。
- 商店街組織が中心となってまちづくりに取り組み、自治体が条例などに後押しすることによって、七日町エリアのまちづくりを推進している。七日町に隣接する団体の事務局長と振興組合が抱い、ビジョンを開発者と共有することにより、一体的なエリアマネジメントを可能にしている。

1- 取組の背景

七日町商店街振興組合は、七日町商店街青年会が実施してきた取組をより発展させることを目的として設立された。平成27(2015)年には、振興組合の100%出資によるまちづくり会社「山形まちづくり株式会社」を設立。商店街は市の中心市街地活性化基本計画の区域内にあり、商店街組織と市が一体となってまちづくりを進めている。

近年では、百貨店の閉店や、新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の停滞、周辺エリアへのマンション建設による来街者層の変化など外部環境の変化が生じている。

1- 取組のポイント

ポイント① 商店街組織による事業推進体制

振興組合は、各商店の若者達が青年会として実施していた商店街活性化の取組をより発展させることを目的として設立された。青年会は、現在も、振興組合の青年部ではなく別組織として活動しているが、事業を振興組合に提案し、承認された事業を主体的に行うなど、双方が独立した組織運営を行いつつも緊密に連携して事業を実施している。

青年会は45歳の定年制で、青年会を定年した者は振興組合理事会に入り活動を継続する流れが確立されており、若年の青年会活動で培った組織運営経験や人脈を活かして振興組合での活動を行うことができる。振興組合の若者達も青年会を経験してきた人が多く、若者達の活動を身近にサポートする伝統がある。青年会と振興組合による事業推進体制が確立されていることが、商店街が積極的なまちづくりを行う基盤となっている。

青年会を中心として毎月1回実施している「一斉朝清掃」は、商店街組織内の団結力・推進力を高めるとともに、参加する周辺企業等を含む七日町エリア内のコミュニケーションを活性化している。

一斉朝清掃

青年会が中心となって毎月30分間の朝清掃を実施。参加は任意だが、毎回50名以上が参加し、商店街の事業者や周辺企業の従業員なども参加する。清掃後は、振興組合が用意した朝食を、参加者が様々な話をしながら頂く。



【図1】一斉朝清掃の様子


朝食を食べているだけに見えるかもしれないが、重要なコミュニケーションの場となっている。朝食活動に参加してからは、参加者の声を組合員が伝えている。朝清掃、清掃後の朝食など、必要の職員は案内に案内して参加を呼びかけている。

振興組合は、振興組合としては対応が難しい活動等を「やらない」選択をするのではなく「できる」ようにするため、100%出資によるまちづくり会社「山形まちづくり株式会社」を2015(平成27)年に設立。専任の専門人材を配置することにより、高いノウハウと知見を活かした活性化の企画・立案・実行に繋げており、遠隔不動産の活用や新規事業者の出入りに対したサポート等、商店街の活性化に向けた多様な活動を、商店街組織が一体となって行っている。

経済産業省中小企業庁(地域)から、わがまち活性化事業2024(事業者協働型)の採択
七日町商店街振興組合・山形まちづくり株式会社

ポイント② 商店街組織の取組を行政等が後押し

商店街組織と山形市、商工会議所、七日町に隣接する団体など多様な主体が連携してまちづくりに取り組んでいる。振興組合の事務局が、七日町エリアでまちづくりのために活動する複数の団体の事務局を扱うことによって、一体的なエリアマネジメントを行うことが可能になっている。



【図2】組織図(一部省略)

商店街組織が行う積極的なまちづくりに対し、山形市は、条例策定、補助金による資金援助など多様な支援を実施。商店街組織との意見交換も活発に行われており、商店街組織も市の政策に積極的に対応するなど、一体となってまちづくりが行われている。

空き店舗対策

商店街に空き店舗を生み出すため、まちづくり会社が、後継者と新規出店者に対するきめ細やかなサポートを実施している。

- ▶ 空き店舗の保有者や後継者に対しては、数年におかたは個別の事情や状況に応じた相談を行う。商店街の希望を「交渉」するのではなく、必要なサポートを行う。
- ▶ 新規出店者に対しては、状況に応じた商工会議所が運営する出店サポートセンターや銀行へのつなぎ金と、商店街への新規出店サポート。出店後、振興組合が相談サポート。

商店街は市の中心市街地活性化基本計画の区域内にあり、新規出店者は、中心市街地活性化のための市の補助金の利用も可能。

七日町エリアの活性化のための市の条例等

- <山形市中心市街地活性化計画(七日町地区街づくりガイドプラン)>
商店街の通りを新設する建物、歩道などのサポートが受けやすくなる
- <山形市まちづくり推進法(条例)>
商店街の通りを新設する建物(歩道)を新設しやすいようにする
- <中小企業創業条例>
商店街地区に出店する際は、商店街振興組合への入店を条件とする
- <七日町商店街まちづくり協定>
商店街の通りには、自転車駐車場を設置しない
商店街の通りを新設する建物(マンション等)の1階は店舗を設ける

市役所の担当課には、若い頃から関係に非違している。青年会の他にも必ず市役所職員に来てもらうなど、何かあれば気軽に会いに来てくれる関係が築けている。日頃の付き合いが重宝。商店街としてまちづくりには、関係が築けることも重要だ。方針がまちづくりで取り組むべきである場合は、商店街の意向をしっかりと伝える。

商店街組織としてやるべきことを、まちに対して行政側と互方向性で取り組む。まちづくり会社を策定するなどして後押ししてくれる市役所が非常にいい。商店街組織と市役所が日々からよく話している結果である。

また、市は、中心市街地地域の商店街が加盟する「山形市中心商店街まちづくり協議会」を月に1回開催し、商店街同士や商工会議所の議論の場を設け、中心市街地の活性化に取り組んでいる。商工会議所も、商店街の若者だけが参加できる「あきんど倶楽部」を設置し、商店街同士の連携を後押しするとともに、まちづくり組織「山形エリアマネジメント協議会」を設置し、中心市街地での出店や創業をサポートする「出店サポートセンター」を運営している。

経済産業省中小企業庁(地域)から、わがまち活性化事業2024(事業者協働型)の採択
七日町商店街振興組合・山形まちづくり株式会社

ポイント③ ビジョン作成～地元住民向けの商店街を目指す～

七日町商店街振興組合は山形県山形市七日町エリアは、江戸時代には商業都市の中心として発展したものの、近年では百貨店の閉店や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による経済活動の停滞、周辺エリアへのマンション建設による来街者層の変化など外部環境が変化している。また、商店街組織では、オーナー店主不在、テナント出店者や県外資本の組合員が増えるなどの組織構造の変化も生じていた。

これらの変化に対応するため、振興組合では令和2年から、同エリアが「どのようなまちを目指すのか」とした。振興組合が「どのようなまち」を目指すのか、何を「何」を行うか」を明確にするためのビジョンとアクションプランの検討を開始。令和6年2月に「最高にちようどいい。七日町」を掲げたビジョンとして発表した。

新たな商業圏のあり方を検討するプロジェクトチームで議論

- 商店街組織の若手5人で議論。
- 地域の若者の増えたこととを踏まえ、反町から商店街商店街への変化を決定。「心」の街づくりを「心」を「心」の街づくりの方向性として定めた。

実績調査

- 人口分布の分析。半径500m以内の居住者、近隣の企業や行政の職員、大学生・高校生向けのアンケート調査を実施。
- 商店街の現状や若者など、商店街をどのように活用したいかを調査。

アクションプラン作成のためのプロジェクトチームで議論

- 地産物やサービスを中心とした商店街振興事業、市役所、商工会議所の若手20名でチームを結成。
- 「商店街組織(若手商店街)」と「住居(若手無職者)」の2つのチームを結成。それぞれのビジョンとアクションプランを作成。

商店街の現状を踏まえて、住居向けの商店街とすることをし、観光客を完全に排除しているわけではない。WIPを無料で使えるように整備したり、整備した後のサポートも行う。関係者間の調整も必要だ。必要の職員は案内に案内して参加を呼びかけている。

身も心も、新しい環境に合ったビジョンに変わった。ビジョンやアクションプランが明確になると、関係者間の調整も必要だ。必要の職員は案内に案内して参加を呼びかけている。

【図3】プロジェクトチームでの議論の様子

ビジョン「最高にちようどいい。七日町」の実現に向け、振興組合・七日町商店街青年会と山形まちづくり株式会社(振興組合の100%出資により設立)は、関係する多様な主体と連携して取組んでいる。例えば、駐車場、歩道、公園など七日町エリアの居心地を良くするための環境整備や、商店街を身近に感じてもらえるための情報発信、生鮮食品店などの近隣生活者向け店舗の充実など、七日町エリアのまちづくりに取り組むべく積極的に取り組んでいる。 駐車場整備 - 商店街周辺に駐車場が少なく、モータリゼーションへの対応を目的に、組合設立当初の1974年平準駐車場を開業。その後に立体化し、現在は、駐車場だけでなく子育て支援施設「コミュニティカフェ」も兼ねた案内所を併設し、地域のコミュニティの場として活用。 - 収入を商店街が行う多くの事業実施に活かす。 歩道整備 - ウォーカブルなまちづくりを行うため、アーケード撤去、電柱地中化、地下水等を活用した無敷水溝歩道敷設などを行い、歩きやすい歩道を整備。 - 整備後、路上交通者や協定を締結し、今後の整備等について協力を得ることになり、東北復興道徳の「ほこも」協定に結んだ。 公園整備 - 商店街内に空き地があったため、これを好機と捉え、陸上と商店街の間で長期賃貸借協定を締結。商店街が公園として整備した。 - その後、周辺再開発に伴い、市が公園を借り上げ、街なかの憩いの場、イベント空間として活用されている。 情報発信 - 商店街のSNS発信、HP更新を実施。イベント情報、サービス店舗の紹介など、商店街の魅力や情報を発信。商店街を身近に感じてもらえるように、商店街への来訪に繋げている。 テナントミックス - 近隣型商店街への対応に向け、近隣生活者向けの店舗の充実を図ることにより、百貨店閉店により一時的に空いた商業機能が再活性化され、「(仮)まちづくり」という成長段階のニーズに応えている。 【図3】プロジェクトチームでの議論の様子

経済産業省中小企業庁(地域)から、わがまち活性化事業2024(事業者協働型)の採択
七日町商店街振興組合・山形まちづくり株式会社

1- 取組の成果

このような民間団体が主体となった積極的な取組をきっかけとして、山形市は、商店街の通りに面する建物の1階店舗とすること、また、商店街の通りに新たに駐車場を設置しないこととを定めた条例を策定するなど、民間の取組を行政として後押ししている。

七日町エリアのまちづくり関係者が一体となった取組により、百貨店の閉店や新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で減少した歩行者通行量は、令和6年10月(時点)に調査された最高を更新した。最近では、若いファミリー層を中心に多世代来街者層の変化も見られている。結果として、山形市内の多くの地域で地価が低下する中、七日町エリアでは地価の上昇が続いている。また、七日町エリアにおける新規出店・創業が増加し、振興組合の組合員数も増加し、設立以来最高となっている。商店街内には活用可能な空き店舗が無くなど、七日町エリアの経済の活性化が進んでいる。

有識者の視点

取組事例のポイント...

七日町商店街の取組において最も注目すべき点は、関係者全員が「商店街の持続的発展」という明確な目標を共有し、それに向けて一体となって取り組んでいることである。この意識がすべての活動の基盤となり、個々の施策が相互に連携することで、より高い効果を生み出している。振興組合を中心に、自治体や商工会議所、周辺企業を含む、七日町エリア全体で協力を重ね、一体感のあるまちづくりを実現している点に、その取り組みの普遍性を見ることができる。その結果、商店街には持続的な発展の基盤が築かれている。

特に印象的なのは、商店街と地域の各主体との関係性である。青年会を中心とした振興組合の積極的な活動や、自治体による条例やルールの整備を通じての支援など、各主体が商店街の発展的な取り組みを通じて協力する姿勢が見られた。このような関係性は、まちづくりを進める上での基本と見られるが、意外に出ていない点も少なくない。特に、自治体や商工会議所の影響に多く頼り込んで実施している事例は少なくない。


もう一つ注目すべき点は、まちづくり会社の位置づけと役割である。全国各地でもまちづくり会社やDMOが設立されているが、必ずしも成功しているわけではない。そのうち、七日町のまちづくり会社は「商店街の持続的な発展」を第一課題として明確に掲げ、商店街を核とした活動を展開している。また、商店街が設置する駐車場の収益を他の事業推進に活用するなど、経済的な持続可能性も確保されている。さらに、ビジョン・アクションプランの策定においても、商店街組織のみならず、自治体や商工会議所などとも共通認識を持ち、長期の取組も取り組んでいる。次世代の継承を担った地域全体の取組として積極的に取り組んでいる点、この事例は高く評価される。

他商店街で参考とするポイント...

本事例から他の商店街が参考すべき点は、振興組合が主導し、関係者全体で共通目標を共有していることである。七日町商店街では、振興組合が長期の目標を明確に掲げ、自治体や商工会議所、まちづくり会社と連携しながらまちづくりを推進している。この連携力が、持続的な発展の基盤となっている。また、自治体が条例や補助金を活用し、振興組合の取組を後押ししている点も特徴的である。他の商店街でも、振興組合を中心に町界を越えて協力を進め、自治体と連携して制度的な支援を得ることが活性化の鍵となる。

1- 商店街概要

名称：七日町商店街振興組合/山形まちづくり株式会社 員数：95名
所在地：山形県山形市七日町一丁目1番1号 店舗数：120店舗
電話：023-631-6398
URL：<https://nanokamachi.com/>
<https://yamagata-machizukuri.jp/>



【山形県山形市】七日町商店街振興組合・山形まちづくり株式会社

商店街と地域が一体となって取り組むまちづくり

- ・商店街青年会・商店街振興組合とまちづくり会社（以下商店街振興）による商店街の活性化推進体制の確立。青年会において若い世代から中心となって活動が展開された点が、その他、振興組合の理事委員会となり、青年会活動で培った経験と人脈を活かして活動を展開させている。
- ・商店街振興組合の中心となってまちづくりに取り組む。自治体が商店街などにより推進することによって、七日町エリアのまちづくりを推進している。七日町に隣接する地域の事業者が振興組合が担い、ビジョンを関係者と共有することにより、一体的なエリアマネジメントを可能にしている。

取組の背景

七日町商店街振興組合は、七日町商店街青年会が主体として取組をより発展させることを目的として設立された。平成27（2015）年には、振興組合の100%出資によるまちづくり会社「山形まちづくり株式会社」を設立。商店街は市の中心市街地活性化基本計画の区域であり、商店街振興とまちづくりを連動させている。近年では、百景計画の進捗や、数寄江コアフェリススタジアム建設による経済効果の増進、七日町エリアへのマンション建設による乗客数の増加など外部環境の変化が生まれている。

取組のポイント

ポイント1 商店街組織による事業推進体制

振興組合は、各関係の代表者が青年会として活動していた商店街活性化の取組をより発展させることを目的として設立された。青年会は、現在も、振興組合の運営だけでなく活動として活動しているが、事業を振興組合に委託し、委託された事業を主体的に行うなど、双方が担った組織運営を行いながら事業に連携して事業を推進している。

青年会は45歳以上の定年制で、青年会を定年した者は振興組合理事委員会に入り活動を継続する仕組みが確立されており、青年の青年会活動で培った経験や知識や人脈を活かして振興組合での活動を行うことができる。振興組合の年費者たちも青年会を継続してきた人が多く、長者たちの活動を盛り上げサポートする役割がある。青年会と振興組合による事業推進体制が確立されていることが、商店街が継続的なまちづくりを行う基盤となっている。

青年会を中心として毎月「百景計画」は、商店街振興の推進力・推進力を高めるのと同時に、参加する商店街事業者を含む七日町エリアのコミュニティワーキングを活性化している。

一貫経営

青年会が中心となって毎月30分の活動時間を実施。参加は任意だが、毎回の出しが参加し、商店街の事業者や商店街の従業員なども参加する。関係者は、振興組合が得意な経営者、参加者が様々なスキルを高める。



【図1】一貫経営の様子



（コメント）
経営者を見てはいるけれど見えないし、重要なコミュニティワーキングとなっている。経営者に参加してもらうためには、経営者に関わる機会を創出しなければならぬ。活動中、経営者の経験などが、必ず経営者全員に届けて参加を促している。

振興組合は、振興組合として2015年以降に活動等がやらない選択をするのではなくできるようにするため、100%出資によるまちづくり会社「山形まちづくり株式会社」を2015（平成27）年に設立。専任の専門人材を配置することにより、高いノウハウと知識を活かした活性化策の企画・立案・実行に繋げたり、近未来の活用や関係事業者の協力を呼びこむなど、商店街の活性化に向けた多様な活動が、商店街振興が一体となって行っている。

ポイント2 商店街組織の取組を行政等が後押し

商店街振興組合の自治体、職工事務局、七日町に隣接する関係者など多様な主体が連携してまちづくりに取り組んでいる。各関係者の連携が、七日町エリアでまちづくりの取組を推進する機運の醸成に寄与していることにより、一体的なエリアマネジメントを行うことができている。



【図2】組織図（一部省略）

商店街振興組合が地域のまちづくりに際し、山形市は、商店街活性化推進センターによる事業推進など多様な支援を受けている。商店街振興組合は、商店街振興組合の取組を行政等が後押ししている。

空き店舗対策

商店街の空き店舗対策として、まちづくり委員会、地産地消推進委員会が連携して空き店舗の活用に取り組んでいる。

- ・空き店舗の活用促進として、町民中心の空き店舗活用推進センターを開設し、空き店舗の活用を促進している。
- ・空き店舗の活用促進として、空き店舗の活用促進センターを開設し、空き店舗の活用を促進している。

七日町エリアの活性化のための取組事例

＜山形県中心市街地活性化推進七日町地区まちづくり推進センター＞

商店街の活性化を推進し、まちづくりを推進している。

＜山形県中心市街地活性化推進七日町地区まちづくり推進センター＞

商店街の活性化を推進し、まちづくりを推進している。

＜山形県中心市街地活性化推進七日町地区まちづくり推進センター＞

商店街の活性化を推進し、まちづくりを推進している。

＜七日町地区まちづくり推進センター＞

商店街の活性化を推進し、まちづくりを推進している。

（コメント）

商店街の活性化は、若い世代が中心に推進している。自治体の取組にも、商店街の活性化を推進している。商店街の活性化を推進している。商店街の活性化を推進している。

（コメント）

商店街の活性化は、自治体の取組にも、商店街の活性化を推進している。商店街の活性化を推進している。商店街の活性化を推進している。

また、市は、中心市街地活性化推進センター（まちづくり推進センター）を開設し、商店街の活性化を推進している。商店街の活性化を推進している。商店街の活性化を推進している。

